久喜市公共交通検討報告書

－資料編－

目　次

資料1　久喜市公共交通検討委員会条例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

資料2　久喜市公共交通検討委員会名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

資料3　久喜市公共交通検討委員会経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

資料4　市内循環バス運行事業概要説明書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

資料5　久喜市総合振興計画市民意識調査報告書(一部抜粋)・・・・・・・・・・・　5

資料6　地域生活交通網検討案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　40

資料7　地域公共交通会議について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

資料8　市民意見提出制度(パブリック・コメント)実施結果・・・・・・・・・・・・　48

資料1　久喜市公共交通検討委員会条例

久喜市公共交通検討委員会条例

平成２２年7月１３日
条例第２３８号

（設置）
第１条　本市における公共交通の充実を図るため、久喜市公共交通検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（所掌事項）
第２条　委員会は、市長の諮問に応じ、本市の公共交通の充実に関し必要な調査及び審議を行う。
（組織）
第３条　委員会は、委員１５人以内で組織する。
（委員の委嘱）
第４条　委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。
（１）　公募による市民
（２）　市内の公共的団体の職員
（３）　学識経験を有する者
（委員の任期等）
第５条　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
２　委員は、再任されることができる。
（会長及び副会長）
第６条　委員会に、会長及び副会長１人を置き、委員の互選によってこれを定める。
２　会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会議）
第７条　委員会の会議は、会長が招集し、その議長となる。ただし、委員委嘱後の最初の委員会の会議は、市長が招集する。
２　委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
３　委員会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（意見聴取等）
第８条　会長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に関係者の出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は関係者に必要な資料の提出を求めることができる。
（庶務）
第９条　委員会の庶務は、総務部企画政策課において処理する。
（委任）
第１０条　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮って定める。

附　則
この条例は、公布の日から施行する。

資料2　久喜市公共交通検討委員会名簿

	氏　　名	カ　　ナ	選　出　区　分	
1	矢島　政美	ﾔｼﾞﾏ　ﾏｻﾐ	第１号委員	公　　募
2	川島　省平	ｶﾜｼﾏ　ｼｮｳﾍｲ		公　　募
3	田嶋　文男	ﾀｼﾞﾏ　ﾌﾐｵ		公　　募
4	山中　甲代子	ﾔﾏﾅｶ　ｷﾖｺ		公　　募
5	佐藤　美弥子	ｻﾄｳ　ﾐﾔｺ		公　　募
6	関口　友永	ｾｷｸﾞﾁ　ﾄﾓﾅｶﾞ	第２号委員	公共的団体
7	堀部　雅司	ﾎﾘﾍﾞ　ﾏｻｼ		公共的団体
8	染谷　精一	ｿﾒﾔ　ｾｲｲﾁ		公共的団体
9	中山　俊雄	ﾅｶﾔﾏ　ﾄｼｵ		公共的団体
10	大迫　和子	ｵｵｻｺ　ｶｽﾞｺ		公共的団体
11	柴崎　美雄	ｼﾊﾞｻｷ　ﾖｼｵ		公共的団体
12	柴木　健之	ｼﾊﾞｷ　ﾀｹｼ		公共的団体
13	山中　ひろ子	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｺ		公共的団体
14	稲葉　澄子	ｲﾅﾊﾞ　ｽﾐｺ		公共的団体
15	小早川　悟	ｺﾊﾞﾔｶﾜ　ｻﾄﾙ	第３号委員	学識経験者

資料3　久喜市公共交通検討委員会経緯

	開催日	議　題	備　考
第１回	平成２２年 １１月１０日(水)	(１)久喜市公共交通検討委員会の所管事項について (２)今後のスケジュールについて	・久喜市公共交通検討委員会委嘱式
第２回	平成２３年 ２月１日(火)	(１)久喜市の公共交通の現況について (２)市内循環バスについて (３)今後のスケジュールについて	
第３回	平成２３年 ３月３０日(水)	(１)久喜市公共交通検討委員会における検討内容について (２)バス交通等に関する課題及び公共交通の方向性について	
第４回	平成２３年 ６月２９日(水)	久喜市公共交通検討報告書（素案）について	
第５回	平成２３年 １０月２７日(木)	(１)久喜市公共交通検討報告書（案）に対する意見募集の実施結果について (２)久喜市公共交通検討報告書（案）について	
第６回	平成２３年 １２月１６日（金）	久喜市における公共交通の答申について	

※会場　第１回から第５回　久喜市役所　大会議室
　　第６回　鷲宮総合支所　４０６～４０８会議室

資料4　市内循環バス運行事業概要説明書

1　市内循環バス運行事業の変遷

年　　月	内　　容
平成６年４月	運行開始 ・東西各６便、平日のみ、運賃無料
平成１５年２月	運行方式の変更 ・有料化 ・民間バス会社への委託 ・土・日の運行 ・本数増便
平成１８年７月	運行の見直し ・運行ルート変更 ・日・祝日の運休 ・１日乗車券・回数券の発行　など
平成２３年４月	運行の見直し ・久喜総合病院の新設に伴い、運行ルート変更

2　事業の概要

平成２３年４月１日現在

項　　目	内　　容
運　行　台　数	小型バス４台（３３人乗り（乗務員含む））
運　行　時　間	午前７時～午後８時
運 行 ル ー ト	７ ルート（６９便、うち旧回送分の運行６便を含む）
停 留 所 箇 所 数	１７４箇所（重複箇所含む）
運　　賃	１回１００円 回数券１，０００円/１１枚　１日乗車券２００円/１日 次の方は無料 身体障害者手帳１級・２級・３級の所持者、養育手帳Ⓐ・Ａ・Ｂの所持者、精神障害者保健福祉手帳の所持者、１種の身体障害者手帳または療育手帳所持者の介護者、保護者同伴の未就学児は無料扱い（無料乗車証の発行）
委　　託　　先	（株）協同観光バス（行田市）

資料5　久喜市総合振興計画市民意識調査結果報告書(一部抜粋)

調査の概要

1．調査の目的

平成 22 年 3 月 23 日に旧久喜市、旧菖蒲町、旧栗橋町及び旧鷲宮町の 1 市 3 町の合併により、新たに人口約 15 万 7 千人、面積 82.4 平方キロメートルの都市として誕生した。

そこで、新市のまちづくりを行っていくにあたり、新たな久喜市が目指すまちづくりの方向や、それを実現させるための施策・事業などの将来目標や施策の基本方針を定める「久喜市総合振興計画」を策定することとなり、市民の考えや意見反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2．調査の設計

調査対象	基準日において、久喜市の住民基本台帳に記録された 18 歳以上の者から 3,000 人（男女各 1,500 人）
基準日	平成 22 年 11 月 1 日
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送調査法
調査時期	平成 22 年 12 月 8 日～12 月 27 日

3．回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,566	52.2%

4．報告書の見方

（1）調査結果の%表記については、小数第 2 位を四捨五入した値であるため、単数回答でも合計が必ずしも 100%になるとは限らない。

(2)複数回答の質問は､回答数を 100%として各選択肢の%を算出しているため、合計は 100%を超えている。

（3）図表中のｎは回答数を示している。

（4）図表中の記号の意味は、以下のとおりである。

全体値より		
	☆:＋15%以上高い	★:－15%以上低い
	○:＋10～15%高い	●:－10～15%低い
	△:＋5～10%高い	▼:－5～10%低い

５．標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の＜算出式＞と＜早見表＞を次に示す。

統計学上の標本誤差は、①比率算出の基数（サンプル数）及び②回答の比率（ｐ）によって誤差幅が異なる。今回調査の誤差幅は±2.53%以内となる。

＜標本誤差算出式＞

$$\text{標本誤差} = \pm 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N＝母集団数
ｎ＝比率算出の基数（回答サンプル数）
ｐ＝回答の比率（0≦p≦1）

＜誤差早見表＞

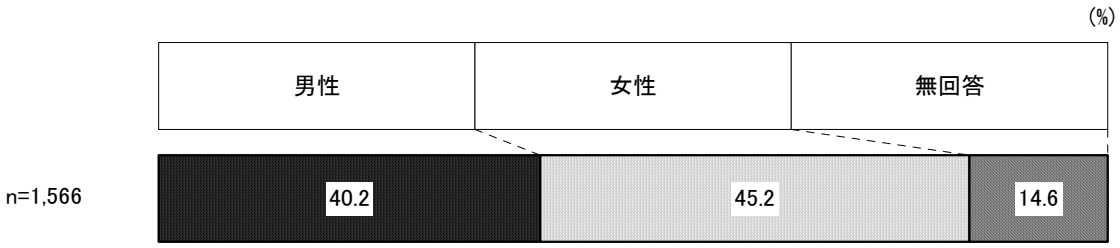
回答比率(p) / 標本数(n)	5%または95%程度	10%または90%程度	20%または80%程度	30%または70%程度	40%または60%程度	50%程度
100	±4.36%	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
200	±3.08%	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
500	±1.95%	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
1,000	±1.38%	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
1,566	±1.10%	±1.52%	±2.02%	±2.32%	2.48±%	±2.53%
5,000	±0.62%	±0.85%	±1.13%	±1.30%	±1.39%	±1.41%
10,000	±0.44%	±0.60%	±0.80%	±0.92%	±0.98%	±1.00%

※上表は$\frac{N-n}{N-1}$　1として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

回答者属性について

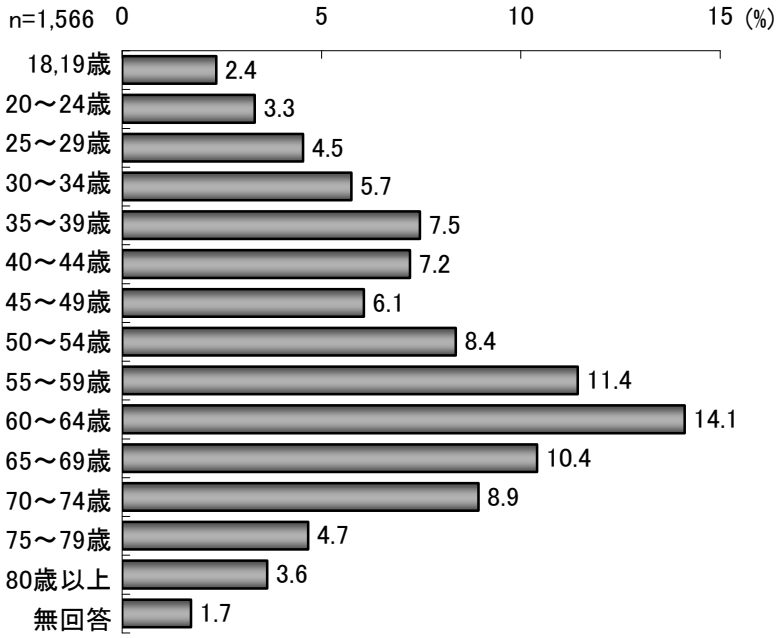
1. 性別

回答者は、「男性」40.2%、「女性」45.2%となっている。



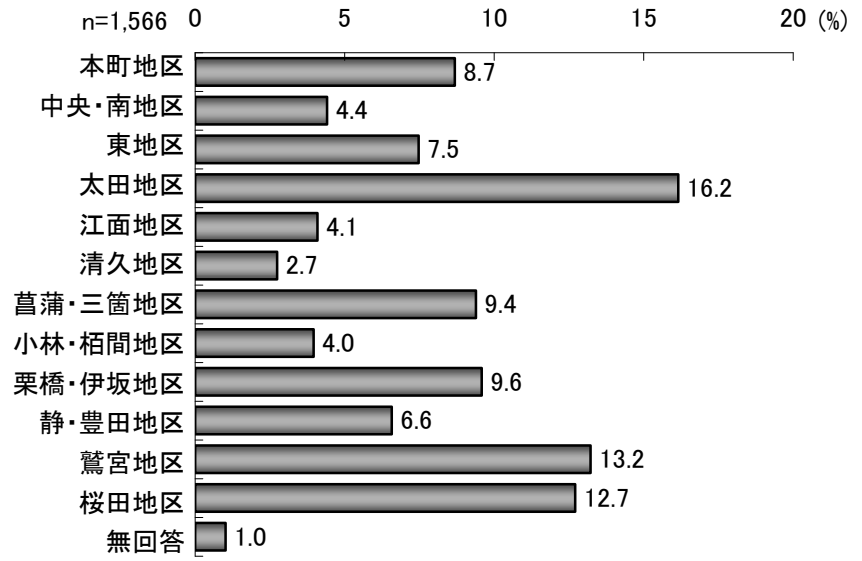
2. 年齢

年齢は、「60～64 歳」が 14.1%と最も多い。ついで、「55～59 歳」(11.4%)、「65～69 歳」(10.4%) が１割強となっている。



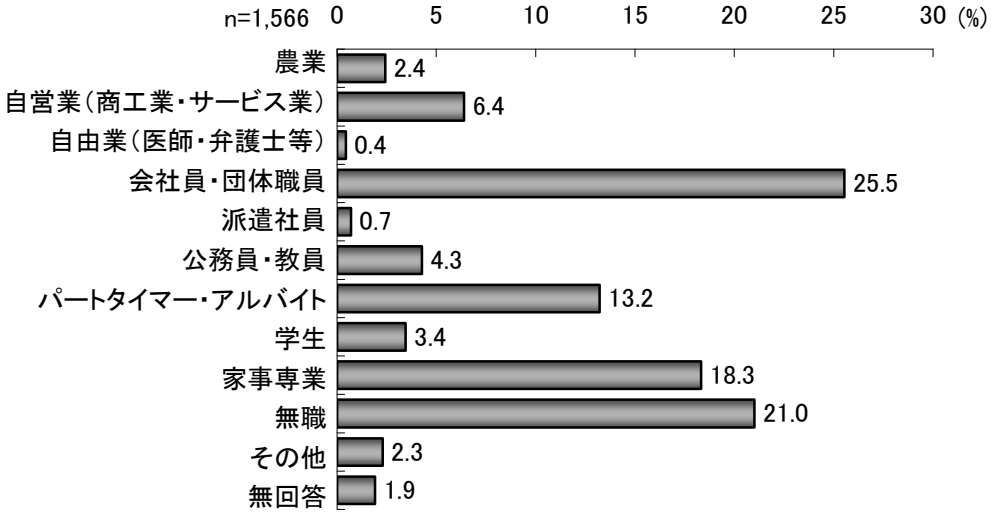
3. 居住地区

居住地区は、「太田地区」（16.2%）、「鷲宮地区」（13.2%）、「桜田地区」（12.7%）が１割を超え多くなっている。



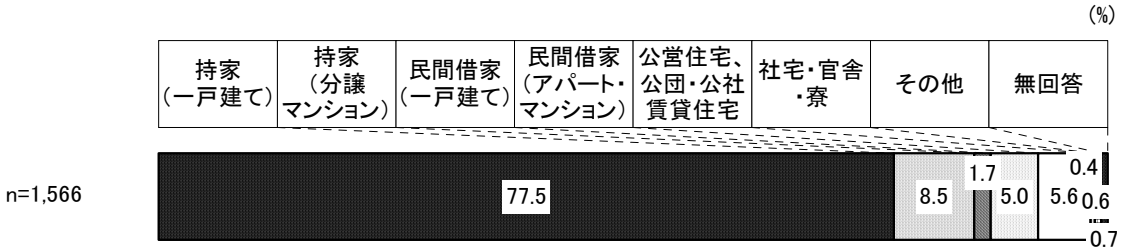
4. 職業

職業は、「会社員・団体職員」が 25.5%と最も多く、４人に１人の割合となっている。ついで、「無職」（21.0%）と「家事専業」（18.3%）が２割前後と多い。



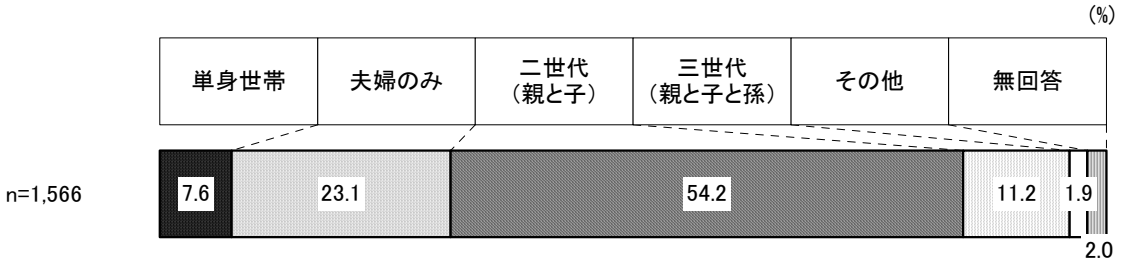
5. 住居形態

住居形態は、「持家（一戸建て）」が 77.5%と多数を占めている。



6. 家族形態

家族形態は、「二世代（親と子）」が 54.2%と最も多く、半数強を占めている。以下、「夫婦のみ」（23.1%）、「三世代（親と子と孫）」（11.2%）、「単身世帯」（7.6%）の順となっている。



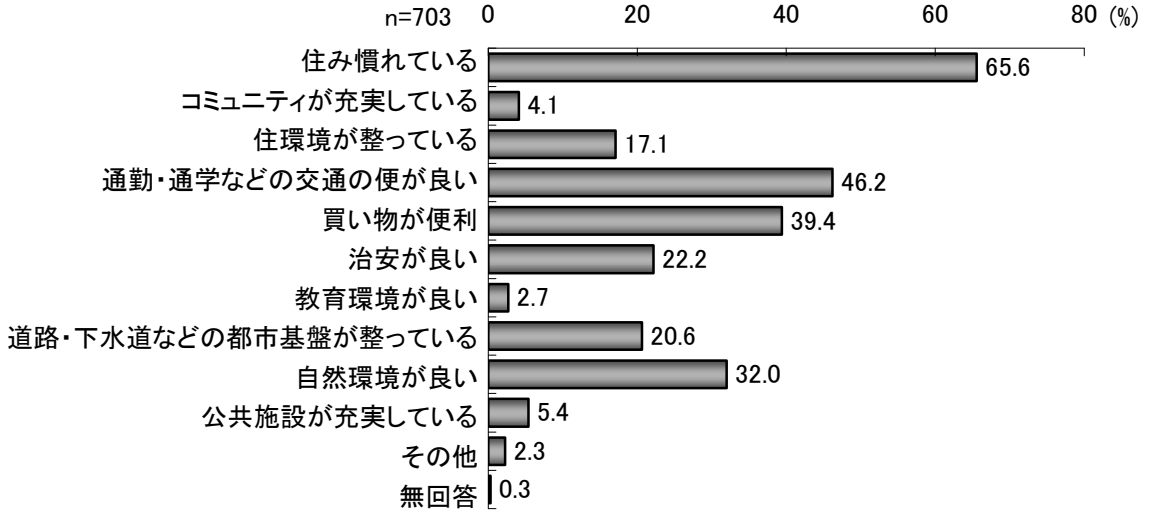
1. 居住状況について

1-3. 住みよさについて

（2）住みよい理由

久喜市が住みよいと回答した人の理由は、「住み慣れている」が 65.6%と最も多い。ついで、「通勤・通学などの交通の便が良い」（46.2%）、「買い物が便利」（39.4%）、「自然環境が良い」（32.0%）が３～４割で続いている。

問 3-1 問 3 で「1.住みよい」とお答えいただいた方におたずねします。その理由を次の中から 3 つまで選んで○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　住みよい理由≫

居住地区別にみると、「住み慣れている」は菖蒲・三箇地区、清久地区、江面地区、小林・栢間地区、静・豊田地区で７～８割と多い。「通勤・通学などの交通の便が良い」は東地区、中央・南地区、太田地区で６割台と多い。

年齢別では、「住み慣れている」は 18～29 歳、「通勤・通学などの交通の便が良い」は 18～29 歳と 40 歳代で６割と多くなっている。この他、60 歳代で「自然環境が良い」をあげる人が４割強と多い。

(%)

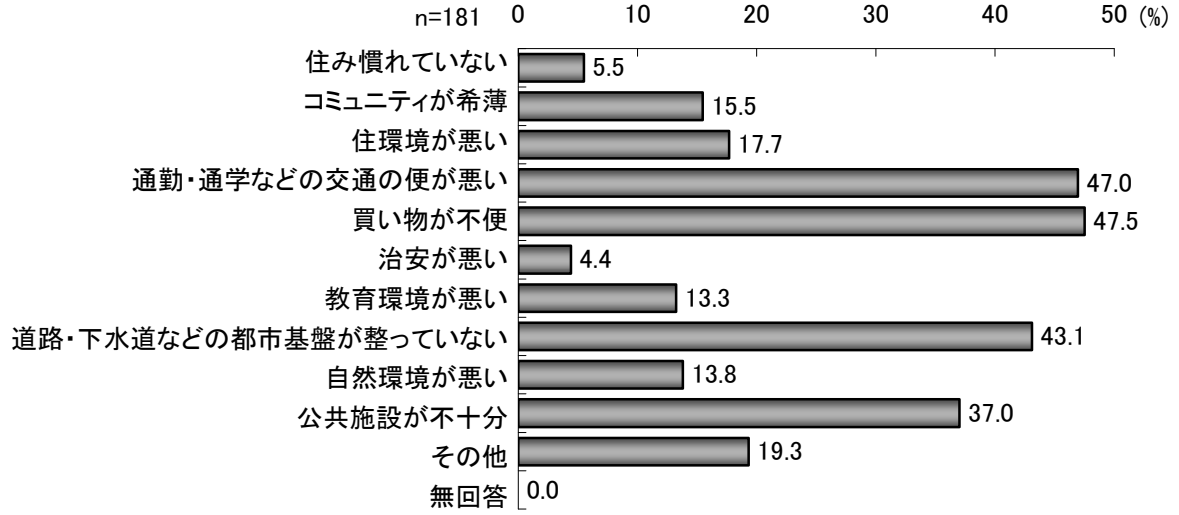
		n	住み慣れている	コミュニティが充実している	住環境が整っている	通勤・通学などの交通の便が良い	買い物が便利	治安が良い
	全体	703	65.6	4.1	17.1	46.2	39.4	22.2
居住地区	本町地区	76	61.8	1.3	17.1	△ 55.3	○ 50.0	▼ 14.5
	中央・南地区	41	★ 48.8	2.4	17.1	○ 61.0	△ 46.3	★ 4.9
	東地区	52	▼ 59.6	7.7	17.3	☆ 69.2	42.3	25.0
	太田地区	144	● 55.6	4.2	△ 22.2	○ 60.4	△ 45.1	18.8
	江面地区	31	☆ 80.6	3.2	16.1	★ 29.0	★ 12.9	☆ 41.9
	清久地区	21	☆ 81.0	4.8	▼ 9.5	▼ 38.1	● 28.6	★ 4.8
	菖蒲・三箇地区	45	☆ 86.7	2.2	13.3	★ 8.9	40.0	○ 35.6
	小林・栢間地区	18	○ 77.8	0.0	▼ 11.1	★ 0.0	★ 5.6	△ 27.8
	栗橋・伊坂地区	44	68.2	4.5	● 4.5	○ 59.1	▼ 29.5	△ 31.8
	静・豊田地区	29	○ 75.9	3.4	17.2	★ 24.1	★ 17.2	▼ 13.8
	鷲宮地区	86	69.8	5.8	▼ 10.5	● 33.7	36.0	22.1
	桜田地区	114	65.8	5.3	△ 24.6	45.6	△ 48.2	△ 27.2
年齢	18～29 歳	75	○ 80.0	5.3	16.0	○ 60.0	▼ 33.3	25.3
	30 歳代	85	▼ 56.5	3.5	△ 23.5	47.1	△ 45.9	18.8
	40 歳代	80	▼ 57.5	1.3	15.0	☆ 61.3	△ 48.8	20.0
	50 歳代	140	65.0	3.6	16.4	42.1	38.6	25.7
	60 歳代	179	65.4	5.0	15.6	45.3	41.9	20.7
	70 歳代	102	68.6	5.9	△ 22.5	▼ 37.3	▼ 33.3	17.6
	80 歳以上	31	67.7	3.2	● 3.2	● 32.3	● 29.0	○ 35.5

		n	教育環境が良い	道路・下水道などの都市基盤が整っている	自然環境が良い	公共施設が充実している	その他	無回答
	全体	703	2.7	20.6	32.0	5.4	2.3	0.3
居住地区	本町地区	76	5.3	△ 28.9	★ 14.5	9.2	5.3	0.0
	中央・南地区	41	2.4	△ 29.3	● 19.5	2.4	7.3	2.4
	東地区	52	1.9	△ 28.8	★ 9.6	5.8	3.8	0.0
	太田地区	144	4.9	○ 33.3	▼ 25.0	5.6	1.4	0.0
	江面地区	31	6.5	16.1	○ 45.2	9.7	3.2	0.0
	清久地区	21	0.0	● 9.5	▼ 23.8	▼ 0.0	0.0	0.0
	菖蒲・三箇地区	45	0.0	▼ 13.3	☆ 51.1	2.2	0.0	0.0
	小林・栢間地区	18	0.0	▼ 11.1	☆ 66.7	▼ 0.0	0.0	0.0
	栗橋・伊坂地区	44	2.3	▼ 11.4	△ 40.9	4.5	0.0	0.0
	静・豊田地区	29	0.0	● 10.3	○ 44.8	6.9	0.0	0.0
	鷲宮地区	86	2.3	▼ 15.1	○ 45.3	7.0	2.3	0.0
	桜田地区	114	0.9	● 10.5	36.0	4.4	1.8	0.0
年齢	18～29 歳	75	4.0	★ 5.3	★ 13.3	6.7	1.3	0.0
	30 歳代	85	2.4	● 10.6	30.6	4.7	2.4	0.0
	40 歳代	80	3.8	▼ 11.3	▼ 26.3	7.5	2.5	0.0
	50 歳代	140	2.9	17.1	32.9	5.0	4.3	0.0
	60 歳代	179	3.9	△ 27.9	○ 44.1	4.5	2.2	0.0
	70 歳代	102	0.0	○ 33.3	31.4	5.9	0.0	1.0
	80 歳以上	31	0.0	○ 35.5	29.0	6.5	0.0	0.0

（３）住みにくい理由

久喜市は住みにくいと回答した人の理由は、「買い物が不便」（47.5%）、「通勤・通学などの交通の便が悪い」（47.0%）、「道路・下水道などの都市基盤が整っていない」（43.1%）が４割台と多い。

問 3-2　問 3 で「2.住みにくい」とお答えいただいた方におたずねします。その理由を次の中から 3 つまで選んで○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　住みにくい理由≫

居住地区別にみると、菖蒲・三箇地区、小林・栢間地区で「通勤・通学などの交通の便が悪い」をあげる人が８～９割と多くなっている。

年齢別では、30 歳代や 40 歳代では「教育環境が悪い」「公共施設が不十分」、50 歳代では「通勤・通学などの交通の便が悪い」「買い物が不便」をあげる人がやや多くなっている。

(%)

		n	住み慣れていない	コミュニティが希薄	住環境が悪い	通勤・通学などの交通の便が悪い	買い物が不便	治安が悪い
	全体	181	5.5	15.5	17.7	47.0	47.5	4.4
居住地区	本町地区	11	▼ 0.0	18.2	△ 27.3	★ 9.1	● 36.4	9.1
	中央・南地区	3	▼ 0.0	★ 0.0	☆ 33.3	● 33.3	● 33.3	0.0
	東地区	10	10.0	20.0	20.0	★ 20.0	50.0	0.0
	太田地区	15	△ 13.3	☆ 40.0	13.3	★ 26.7	▼ 40.0	6.7
	江面地区	6	○ 16.7	16.7	☆ 33.3	● 33.3	☆ 83.3	0.0
	清久地区	6	▼ 0.0	☆ 33.3	☆ 33.3	★ 16.7	● 33.3	○ 16.7
	菖蒲・三箇地区	34	2.9	△ 20.6	▼ 11.8	☆ 94.1	★ 29.4	0.0
	小林・栢間地区	16	6.3	★ 0.0	● 6.3	☆ 81.3	☆ 87.5	0.0
	栗橋・伊坂地区	21	9.5	★ 0.0	14.3	★ 28.6	○ 61.9	4.8
	静・豊田地区	15	▼ 0.0	▼ 6.7	13.3	46.7	○ 60.0	6.7
	鷲宮地区	27	3.7	△ 22.2	△ 25.9	● 33.3	48.1	7.4
	桜田地区	13	7.7	▼ 7.7	△ 23.1	★ 30.8	★ 30.8	7.7
年齢	18～29 歳	18	5.6	▼ 5.6	16.7	☆ 66.7	△ 55.6	5.6
	30 歳代	37	▼ 0.0	▼ 8.1	▼ 10.8	51.4	45.9	2.7
	40 歳代	27	7.4	▼ 7.4	▼ 11.1	51.9	● 37.0	3.7
	50 歳代	28	3.6	17.9	21.4	○ 60.7	△ 57.1	3.6
	60 歳代	48	10.4	△ 22.9	△ 27.1	● 35.4	43.8	6.3
	70 歳代	16	▼ 0.0	△ 25.0	▼ 12.5	★ 25.0	● 37.5	0.0
	80 歳以上	6	○ 16.7	☆ 33.3	16.7	● 33.3	☆ 83.3	○ 16.7

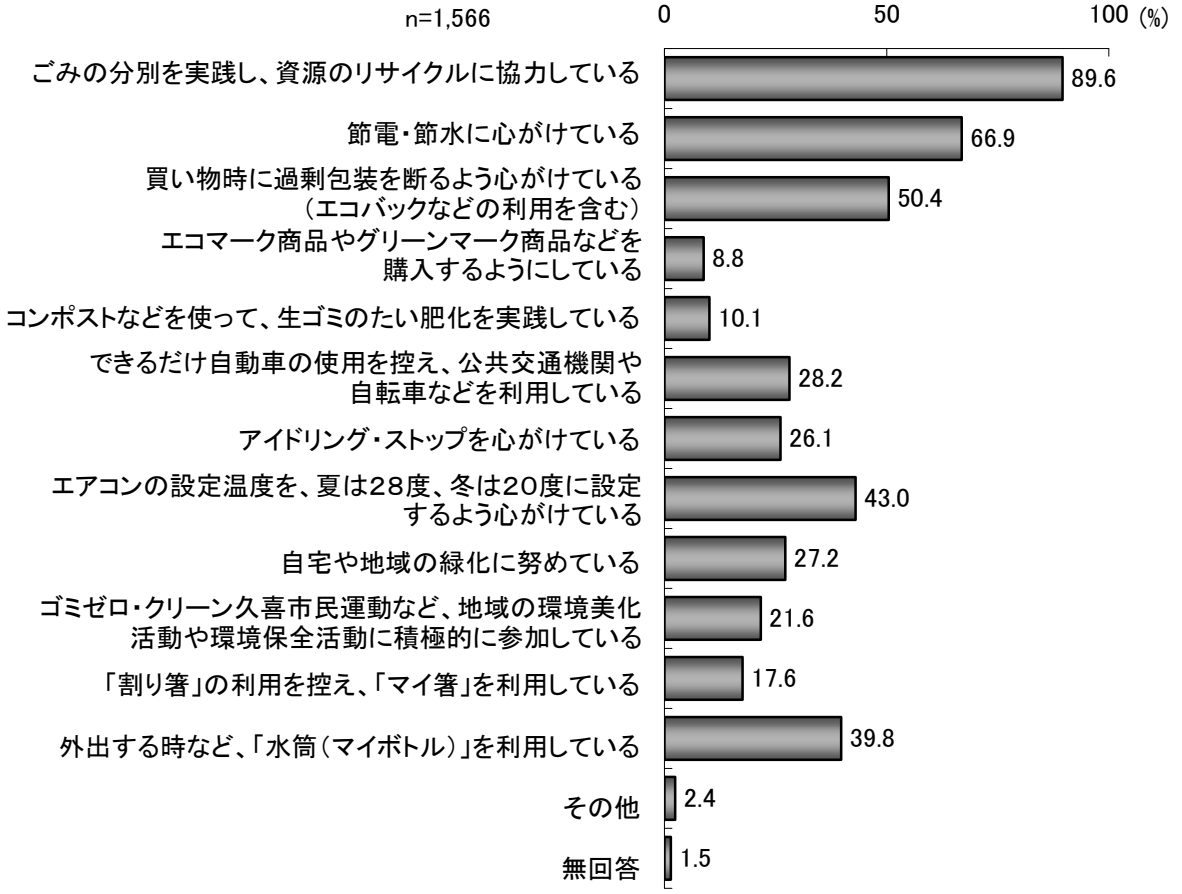
		n	教育環境が悪い	道路・下水道などの都市基盤が整っていない	自然環境が悪い	公共施設が不十分	その他	無回答
	全体	181	13.3	43.1	13.8	37.0	19.3	0.0
居住地区	本町地区	11	18.2	▼ 36.4	9.1	△ 45.5	36.4	0.0
	中央・南地区	3	☆ 33.3	▼ 33.3	☆ 33.3	33.3	33.3	0.0
	東地区	10	△ 20.0	△ 50.0	△ 20.0	☆ 60.0	10.0	0.0
	太田地区	15	13.3	40.0	○ 26.7	40.0	26.7	0.0
	江面地区	6	16.7	△ 50.0	16.7	★ 0.0	16.7	0.0
	清久地区	6	16.7	☆ 66.7	☆ 33.3	★ 0.0	33.3	0.0
	菖蒲・三箇地区	34	8.8	● 32.4	▼ 8.8	★ 20.6	14.7	0.0
	小林・栢間地区	16	● 0.0	▼ 37.5	● 0.0	★ 18.8	6.3	0.0
	栗橋・伊坂地区	21	☆ 28.6	○ 57.1	14.3	☆ 57.1	14.3	0.0
	静・豊田地区	15	13.3	☆ 66.7	13.3	33.3	26.7	0.0
	鷲宮地区	27	▼ 3.7	40.7	14.8	☆ 59.3	7.4	0.0
	桜田地区	13	15.4	● 30.8	15.4	△ 46.2	38.5	0.0
年齢	18～29 歳	18	▼ 5.6	▼ 33.3	16.7	▼ 27.8	11.1	0.0
	30 歳代	37	☆ 29.7	40.5	16.2	△ 43.2	27.0	0.0
	40 歳代	27	○ 25.9	△ 48.1	14.8	○ 51.9	11.1	0.0
	50 歳代	28	14.3	46.4	▼ 7.1	▼ 28.6	21.4	0.0
	60 歳代	48	● 2.1	47.9	14.6	▼ 29.2	20.8	0.0
	70 歳代	16	● 0.0	43.8	18.8	37.5	18.8	0.0
	80 歳以上	6	● 0.0	★ 16.7	● 0.0	○ 50.0	16.7	0.0

2. 環境保全について

2-1. 環境保全に関する活動について

環境保全に関する活動や気をつけていることとしては、「ごみの分別を実践し、資源のリサイクルに協力している」（89.6%）が最も多く、約９割を占めている。ついで、「節電・節水に心がけている」（66.9%）、「買い物時に過剰包装を断るよう心がけている（エコバックなどの利用を含む）」（50.4%）が５～６割と多い。

問 5 地球環境保全への意識や取り組みが盛んになっていますが、あなたは日頃、環境保全に関する活動を行ったり、日常生活の中で気をつけていることはありますか。次の中から、あなたが行っているものすべてに○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　環境保全に関する活動について≫

居住地区別でみると、「できるだけ自動車の使用を控え、公共交通機関や自転車などを利用している」は中央・南地区、「ゴミゼロ・クリーン久喜市民運動など、地域の環境美化活動や環境保全活動に積極的に参加している」は桜田地区で多くなっている。

年齢別では、全般的に 18～29 歳の各活動についての回答比率が低くなっている。

(%)

		n	ごみの分別を実践し、資源のリサイクルに協力している	節電・節水に心がけている	買い物時に過剰包装を断るよう心がけている（エコバックなどの利用を含む）	エコマーク商品やグリーンマーク商品などを購入するようにしている	コンポストなどを使って、生ゴミのたい肥化を実践している	できるだけ自動車の使用を控え、公共交通機関や自転車などを利用している	アイドリング・ストップを心がけている
全体		1,566	89.6	66.9	50.4	8.8	10.1	28.2	26.1
居住地区	本町地区	136	93.4	70.6	50.0	9.6	7.4	△ 35.3	△ 33.1
	中央・南地区	69	89.9	△ 73.9	△ 58.0	8.7	7.2	☆ 53.6	▼ 20.3
	東地区	117	△ 94.9	63.2	47.0	10.3	12.0	△ 36.8	24.8
	太田地区	253	91.3	67.2	46.2	7.9	11.9	△ 33.6	30.8
	江面地区	64	89.1	△ 71.9	48.4	△ 15.6	○ 20.3	● 14.1	△ 31.3
	清久地区	43	90.7	▼ 58.1	51.2	○ 23.3	△ 18.6	● 16.3	△ 32.6
	菖蒲・三箇地区	147	90.5	65.3	53.7	9.5	8.2	▼ 18.4	27.2
	小林・栢間地区	62	△ 95.2	62.9	53.2	▼ 1.6	○ 24.2	★ 9.7	24.2
	栗橋・伊坂地区	150	90.7	69.3	△ 60.0	9.3	6.7	30.7	26.7
	静・豊田地区	103	▼ 84.5	63.1	▼ 41.7	6.8	8.7	● 14.6	24.3
	鷲宮地区	207	86.0	66.7	46.9	7.7	5.3	28.0	▼ 19.8
	桜田地区	199	87.9	69.3	55.3	6.5	9.5	27.1	21.6
年齢	18～29 歳	160	● 78.8	★ 45.0	● 37.5	6.9	▼ 3.8	24.4	● 12.5
	30 歳代	207	▼ 84.1	64.3	53.6	5.3	6.3	▼ 20.3	29.5
	40 歳代	208	90.4	70.2	53.4	7.2	7.7	▼ 22.1	25.0
	50 歳代	310	△ 95.2	69.0	△ 57.7	10.6	11.9	▼ 23.2	30.3
	60 歳代	384	94.5	△ 72.4	54.7	9.9	13.5	△ 35.7	31.0
	70 歳代	213	92.0	△ 73.2	▼ 45.1	10.3	11.7	○ 40.4	24.9
	80 歳以上	57	● 78.9	▼ 57.9	★ 24.6	7.0	14.0	▼ 22.8	★ 8.8

		n	エアコンの設定温度を、夏は28度、冬は20度に設定するよう心がけている	自宅や地域の緑化に努めている	ゴミゼロ・クリーン久喜市民運動など、地域の環境美化活動や環境保全活動に積極的に参加している	「割り箸」の利用を控え、「マイ箸」を利用している	外出する時など、「水筒（マイボトル）」を利用している	その他	無回答
全体		1,566	43.0	27.2	21.6	17.6	39.8	2.4	1.5
居住地区	本町地区	136	41.2	29.4	▼ 11.8	△ 22.8	40.4	4.4	0.0
	中央・南地区	69	○ 53.6	27.5	▼ 15.9	18.8	39.1	2.9	1.4
	東地区	117	△ 50.4	▼ 22.2	18.8	17.1	△ 47.0	2.6	0.9
	太田地区	253	42.3	25.7	17.0	17.0	42.7	0.8	1.6
	江面地区	64	43.8	○ 37.5	21.9	○ 29.7	35.9	3.1	1.6
	清久地区	43	▼ 37.2	△ 34.9	18.6	16.3	41.9	2.3	2.3
	菖蒲・三箇地区	147	39.5	27.2	● 11.6	20.4	37.4	1.4	1.4
	小林・栢間地区	62	▼ 35.5	22.6	★ 6.5	▼ 9.7	● 27.4	3.2	0.0
	栗橋・伊坂地区	150	42.7	△ 32.7	21.3	15.3	△ 45.3	3.3	0.7
	静・豊田地区	103	45.6	△ 35.0	23.3	18.4	38.8	2.9	1.0
	鷲宮地区	207	44.4	22.7	△ 30.4	16.9	40.1	2.4	1.4
	桜田地区	199	41.7	23.6	☆ 40.7	13.1	▼ 34.2	1.5	1.5
年齢	18～29 歳	160	● 31.9	★ 4.4	★ 0.6	18.1	● 29.4	3.1	2.5
	30 歳代	207	▼ 34.3	● 16.4	▼ 12.6	▼ 11.1	△ 45.9	1.0	2.4
	40 歳代	208	40.9	▼ 17.8	17.3	19.7	38.0	3.4	0.5
	50 歳代	310	39.7	29.7	24.8	16.1	▼ 34.5	2.3	0.6
	60 歳代	384	△ 52.1	○ 38.0	○ 32.0	19.0	△ 44.8	2.6	0.3
	70 歳代	213	△ 52.1	○ 39.9	△ 26.8	△ 23.0	43.7	1.9	1.4
	80 歳以上	57	43.9	△ 36.8	19.3	14.0	▼ 33.3	0.0	5.3

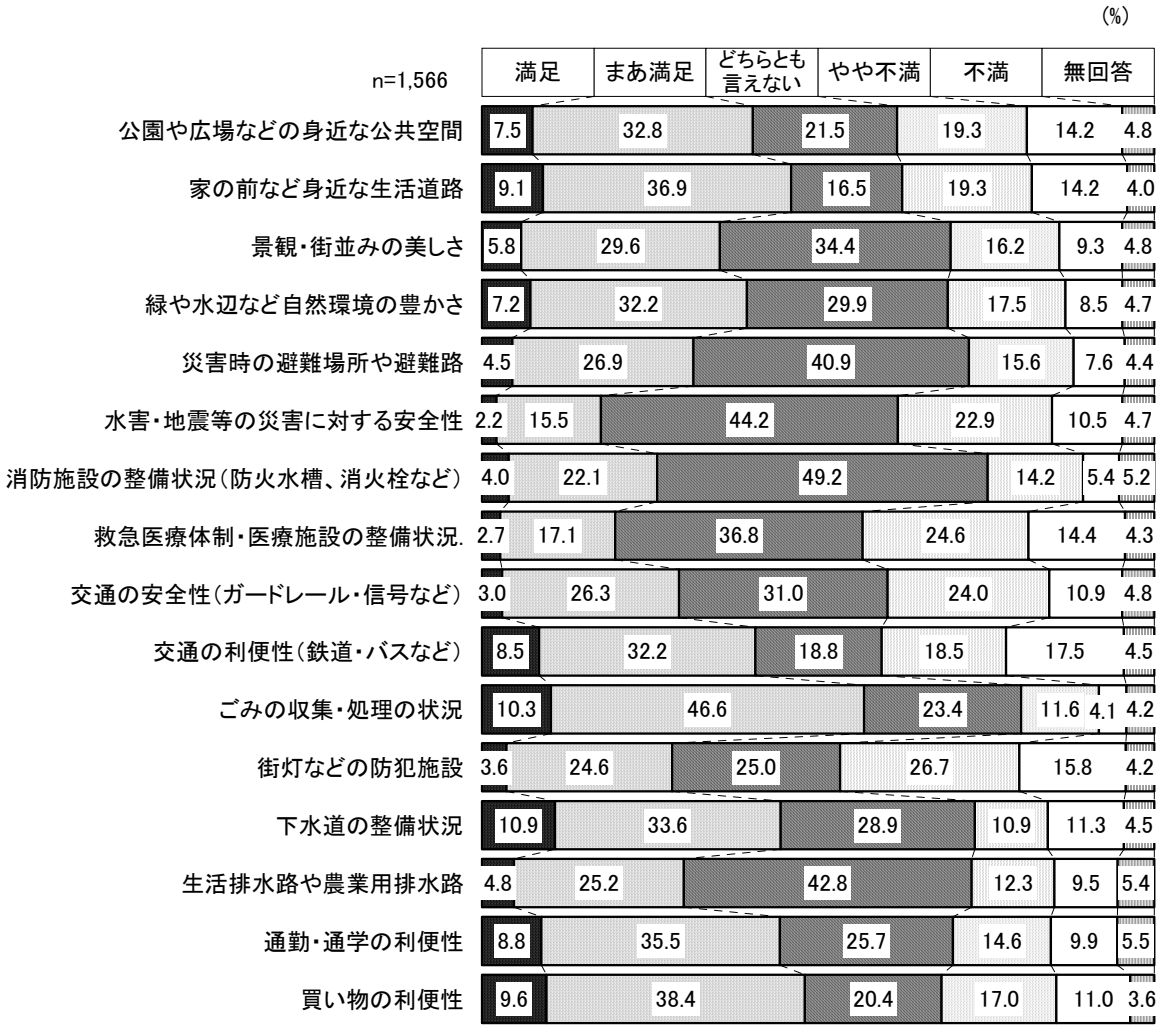
10. 地域の生活環境について

10-1. 居住地域の生活環境について日頃感じていること

居住地域の生活環境の満足度をみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた“満足”との回答が最も多いのは「ごみの収集・処理の状況」（56.9%）である。ついで、「買い物の利便性」(48.0%)、「家の前など身近な生活道路」(46.0%)、「下水道の整備状況」(44.5%)、「通勤・通学の利便性」（44.3%）の４項目が40%台で続いている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた“不満”との回答が最も多かったのは「街灯などの防犯施設」(42.5%）であり、以下「救急医療体制・医療施設の整備状況」(39.0%)、「交通の利便性（鉄道・バスなど）」(36.0%)、「交通の安全性（ガードレール・信号など）」(34.9%)、「公園や広場などの身近な公共空間」(35.5%)、「家の前など身近な生活道路」(33.5%)、「水害・地震等の災害に対する安全性」(33.4%）の６項目が 30%で続いている。

問 22 あなたがお住まいの地域の生活環境について、日頃どのように感じていますか。次の各項目について、数字の中からそれぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　居住地域の生活環境について日頃感じていること≫

満足率が最も高かった「ごみの収集・処理の状況」は、東地区では７割弱と高くなっているが、菖蒲・三箇地区では４割にとどまっている。次に高かった「買い物の利便性」は、桜田地区では７割弱と高いが、小林・栢間地区、江面地区では１割台にとどまる。全般的に、太田地区や桜田地区では満足率が高くなっている。

年齢別にみると、満足率が最も高かった「ごみの収集・処理の状況」は 18～29 歳では 46.3%と低く、５割を切っている。

【満足率(「満足」と「まあ満足」の合計比率)】　(%)

		n	公園や広場などの身近な公共空間	家の前など身近な生活道路	景観・街並みの美しさ	緑や水辺など自然環境の豊かさ	災害時の避難場所や避難路	水害・地震等の災害に対する安全性	消防施設の整備状況（防火水槽、消火栓など）	救急医療体制・医療施設の整備状況
全体		1,566	40.3	46.0	35.4	39.4	31.4	17.7	26.1	19.8
居住地区	本町地区	136	▼ 33.8	47.0	33.0	● 27.9	△ 38.2	16.9	26.4	20.6
	中央・南地区	69	★ 20.2	★ 27.5	31.9	▼ 30.4	▼ 24.6	13.0	27.5	△ 29.0
	東地区	117	▼ 32.5	▼ 39.3	● 21.3	● 24.8	▼ 24.8	● 6.9	23.1	17.1
	太田地区	253	☆ 59.7	△ 52.6	○ 46.6	40.7	33.9	20.2	27.6	21.0
	江面地区	64	36.0	● 36.0	▼ 29.7	39.1	△ 39.0	△ 23.5	○ 39.1	○ 32.8
	清久地区	43	★ 16.3	★ 23.3	32.6	34.9	27.9	21.0	27.9	○ 30.2
	菖蒲・三箇地区	147	38.7	▼ 40.1	● 23.1	○ 49.6	33.4	△ 23.1	▼ 21.1	● 9.6
	小林・栢間地区	62	★ 17.7	43.6	40.3	△ 48.4	32.2	16.1	27.4	19.3
	栗橋・伊坂地区	150	★ 19.3	▼ 40.0	★ 18.6	▼ 33.3	● 18.6	14.0	▼ 19.3	▼ 12.0
	静・豊田地区	103	39.8	48.6	△ 43.7	△ 45.6	29.1	▼ 12.6	26.2	19.4
	鷲宮地区	207	38.7	44.9	31.9	37.2	32.4	16.9	25.1	23.6
	桜田地区	199	☆ 65.8	☆ 67.4	☆ 54.8	○ 52.8	△ 37.2	△ 23.6	29.6	20.6
年齢	18～29 歳	160	43.8	△ 51.3	37.5	41.2	31.9	20.0	26.3	23.1
	30 歳代	207	38.7	47.8	△ 43.0	△ 46.4	34.3	18.8	26.5	16.9
	40 歳代	208	37.5	42.4	39.4	△ 48.1	△ 36.6	13.5	24.1	18.8
	50 歳代	310	42.5	45.5	36.5	39.7	29.0	20.7	24.9	17.1
	60 歳代	384	42.5	48.0	34.3	38.0	32.8	18.5	27.9	21.6
	70 歳代	213	35.7	42.7	▼ 26.7	● 27.7	30.1	15.5	26.3	21.1
	80 歳以上	57	40.4	42.2	★ 19.3	● 28.1	● 21.1	▼ 12.3	24.6	21.1

		n	交通の安全性（ガードレール・信号など）	交通の利便性（鉄道・バスなど）	ごみの収集・処理の状況	街灯などの防犯施設	下水道の整備状況	生活排水路や農業用排水路	通勤・通学の利便性	買い物の利便性
全体		1,566	29.3	40.7	56.9	28.2	44.5	30.0	44.3	48.0
居住地区	本町地区	136	27.9	○ 51.5	61.7	○ 40.4	☆ 59.5	○ 41.1	○ 57.3	○ 60.3
	中央・南地区	69	△ 39.1	☆ 62.3	△ 66.6	△ 34.7	☆ 65.2	△ 37.6	☆ 69.6	○ 59.4
	東地区	117	25.6	○ 54.7	○ 69.2	32.5	☆ 61.5	△ 35.0	☆ 61.6	△ 54.7
	太田地区	253	33.9	☆ 58.1	59.7	32.1	△ 51.0	32.8	○ 55.4	○ 58.1
	江面地区	64	31.2	★ 25.0	60.9	△ 34.4	▼ 39.0	29.7	★ 26.6	★ 18.7
	清久地区	43	▼ 20.9	39.5	58.1	25.6	△ 53.5	△ 37.2	● 30.2	★ 32.5
	菖蒲・三箇地区	147	● 19.0	★ 7.5	★ 41.5	★ 12.9	★ 27.2	● 18.3	★ 9.5	44.9
	小林・栢間地区	62	▼ 22.6	★ 4.8	▼ 51.6	▼ 22.6	▼ 38.7	25.8	★ 11.3	★ 14.5
	栗橋・伊坂地区	150	32.6	43.3	54.7	▼ 20.7	▼ 36.0	26.7	45.3	▼ 42.0
	静・豊田地区	103	29.1	● 26.2	▼ 51.4	27.2	● 32.1	29.1	★ 27.2	★ 22.3
	鷲宮地区	207	26.1	39.1	53.6	27.1	40.6	29.9	41.6	▼ 43.0
	桜田地区	199	△ 36.2	△ 45.8	60.8	31.1	42.2	26.6	☆ 59.8	☆ 68.8
年齢	18～29 歳	160	33.8	42.5	● 46.3	23.8	▼ 36.9	32.6	47.6	51.9
	30 歳代	207	▼ 23.7	36.7	54.6	▼ 23.2	▼ 37.2	30.5	39.6	51.7
	40 歳代	208	25.4	41.4	55.8	23.6	44.2	29.8	44.7	48.1
	50 歳代	310	32.6	40.3	59.3	25.5	43.6	27.4	46.4	52.2
	60 歳代	384	30.8	43.0	61.2	△ 33.9	△ 50.3	31.2	45.8	50.0
	70 歳代	213	30.6	41.8	57.7	△ 33.8	48.3	31.0	44.1	▼ 38.5
	80 歳以上	57	▼ 22.9	● 29.8	54.4	28.1	43.9	29.8	★ 28.1	★ 28.1

不満率をみると、「街灯などの防犯施設」は菖蒲・三箇地区と栗橋・伊坂地区で 55%前後と多い。「交通の利便性（鉄道・バスなど）」や「通勤・通学の利便性」は、菖蒲・三箇地区と小林・栢間地区で高くなっている。

年齢別では、「街灯などの防犯施設」は 40 歳代以下で５割前後と高い。「救急医療体制・医療施設の整備状況」「交通の安全性（ガードレール・信号など）」「通勤・通学の利便性」も 30～40 歳代の不満率が高くなっている。

【不満率（「不満」と「やや不満」の合計比率）】

(%)

		n	公園や広場などの身近な公共空間	家の前など身近な生活道路	景観・街並みの美しさ	緑や水辺など自然環境の豊かさ	災害時の避難場所や避難路	水害・地震等の災害に対する安全性	消防施設の整備状況（防火水槽、消火栓など）	救急医療体制・医療施設の整備状況
全体		1,566	33.5	33.5	25.5	26.0	23.2	33.4	19.6	39.0
居住地区	本町地区	136	△ 40.4	33.8	28.7	30.9	▼ 16.9	30.2	17.6	42.6
	中央・南地区	69	○ 46.4	△ 42.0	23.1	30.4	△ 28.9	33.3	17.3	▼ 31.9
	東地区	117	△ 42.7	△ 42.8	△ 33.3	☆ 44.5	△ 29.1	△ 38.4	18.8	41.0
	太田地区	253	● 20.9	29.3	● 15.4	22.5	▼ 16.2	29.3	16.3	41.5
	江面地区	64	35.9	☆ 54.7	△ 31.3	28.1	25.0	▼ 26.6	15.6	● 26.5
	清久地区	43	☆ 53.5	☆ 48.8	△ 34.9	○ 37.3	△ 32.5	32.6	18.6	● 27.9
	菖蒲・三箇地区	147	▼ 25.2	31.9	27.9	▼ 17.7	25.2	28.5	21.1	○ 53.8
	小林・栢間地区	62	△ 42.0	29.0	▼ 17.7	● 12.9	▼ 17.7	● 20.9	17.7	42.0
	栗橋・伊坂地区	150	☆ 54.0	38.0	○ 40.0	30.7	○ 33.3	○ 46.0	○ 30.6	△ 46.7
	静・豊田地区	103	△ 38.9	34.0	27.2	21.4	28.1	△ 42.8	18.5	△ 45.6
	鷲宮地区	207	32.4	31.4	26.1	29.9	22.7	△ 39.1	21.2	● 27.5
	桜田地区	199	★ 17.1	● 20.6	▼ 17.1	▼ 18.1	18.6	▼ 28.1	17.6	▼ 33.6
年齢	18～29 歳	160	33.2	30.7	30.0	28.7	19.4	30.0	15.7	▼ 32.5
	30 歳代	207	△ 41.6	33.3	27.5	29.9	24.6	36.3	21.7	△ 47.3
	40 歳代	208	36.5	△ 40.4	25.0	21.2	23.1	35.6	18.8	△ 48.5
	50 歳代	310	35.2	36.1	28.7	26.8	24.5	31.9	19.0	39.7
	60 歳代	384	33.1	30.2	23.7	26.0	21.3	35.2	21.1	38.5
	70 歳代	213	▼ 26.7	33.8	23.5	29.6	24.4	33.3	20.2	▼ 30.0
	80 歳以上	57	★ 15.8	▼ 28.0	▼ 17.5	● 14.1	24.6	▼ 26.3	15.8	▼ 29.8

		n	交通の安全性（ガードレール・信号など）	交通の利便性（鉄道・バスなど）	ごみの収集・処理の状況	街灯などの防犯施設	下水道の整備状況	生活排水路や農業用排水路	通勤・通学の利便性	買い物の利便性
全体		1,566	34.9	36.0	15.7	42.5	22.2	21.8	24.5	28.0
居住地区	本町地区	136	36.0	● 23.5	14.7	● 29.4	● 11.8	● 10.3	● 11.0	● 16.9
	中央・南地区	69	▼ 27.5	★ 15.9	13.0	▼ 34.7	★ 5.8	● 7.2	★ 5.7	▼ 20.3
	東地区	117	35.0	★ 19.6	▼ 10.2	39.3	▼ 15.3	▼ 14.5	● 12.8	25.7
	太田地区	253	31.6	★ 18.5	13.9	▼ 34.4	▼ 16.2	18.6	● 12.3	▼ 19.7
	江面地区	64	37.5	☆ 53.1	12.5	40.7	○ 32.8	☆ 39.1	○ 39.1	☆ 56.3
	清久地区	43	△ 41.8	32.5	18.6	44.2	▼ 13.9	23.3	△ 30.2	32.6
	菖蒲・三箇地区	147	△ 42.8	☆ 74.8	○ 26.5	○ 56.4	○ 35.4	○ 36.7	☆ 58.5	27.8
	小林・栢間地区	62	35.5	☆ 80.7	11.3	△ 51.6	17.8	△ 29.1	☆ 62.9	☆ 64.5
	栗橋・伊坂地区	150	31.3	33.3	13.4	○ 54.0	○ 33.3	22.6	24.0	26.7
	静・豊田地区	103	34.9	☆ 52.4	14.5	45.6	☆ 37.8	△ 31.0	○ 38.9	☆ 54.4
	鷲宮地区	207	37.6	37.2	15.0	42.0	22.2	20.7	21.8	29.4
	桜田地区	199	31.6	▼ 28.2	19.1	44.7	21.1	18.6	▼ 15.1	● 15.1
年齢	18～29 歳	160	34.4	38.1	16.2	△ 50.0	18.2	▼ 15.0	26.3	26.3
	30 歳代	207	△ 41.6	△ 44.5	15.0	△ 49.8	24.6	21.7	△ 32.3	29.9
	40 歳代	208	△ 41.9	39.4	19.7	△ 51.0	23.1	19.2	△ 30.3	32.7
	50 歳代	310	37.1	38.1	17.0	46.7	23.3	21.6	28.1	27.1
	60 歳代	384	31.8	32.5	14.0	▼ 36.4	25.0	△ 28.6	19.8	26.3
	70 歳代	213	▼ 28.2	▼ 27.7	15.5	● 32.3	19.2	19.2	▼ 16.9	25.3
	80 歳以上	57	▼ 26.3	36.8	▼ 7.0	● 28.1	▼ 14.0	▼ 14.1	▼ 17.5	31.6

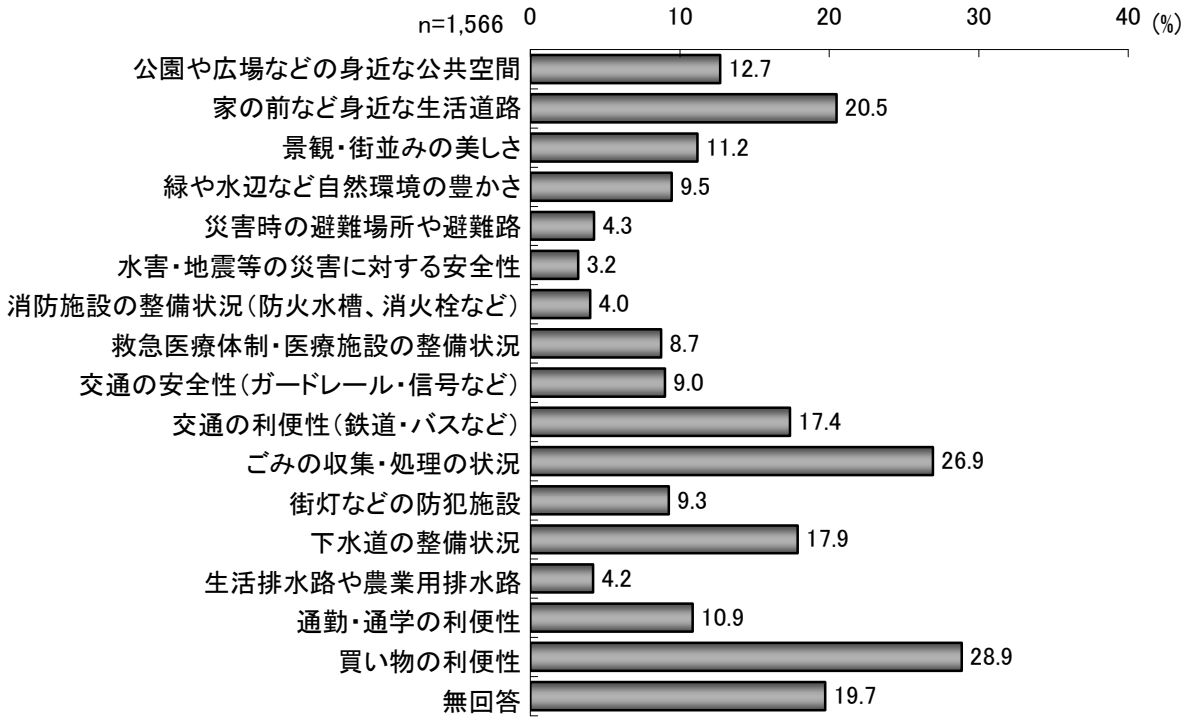
10-2. 居住地域の生活環境について

（１）ここ数年でよくなってきたこと

居住地域の生活環境について、ここ数年でよくなってきたと思うことについては、「買い物の利便性」（28.9%）、「ごみの収集・処理の状況」（26.9%）、「家の前など身近な生活道路」（20.5%）が２割台で上位にあげられている。

問 23 あなたは、あなたがお住まいの地域の生活環境で、どのようなことがここ数年でよくなってきたと思いますか。

（1）問 22 の項目の中（1～16）から、よくなってきたと思うものを3つまで選んで、次の欄にその番号を 記入してください。



≪居住地区、年齢別　ここ数年でよくなってきたこと≫

居住地区別にみると、「買い物の利便性」は菖蒲・三箇地区と桜田地区、「ごみの収集・処理の状況」「下水道の整備状況」は小林・栢間地区、「交通の利便性（鉄道・バスなど)」は中央・南地区、「公園や広場などの身近な公共空間」は桜田地区で特に多くなっている。

年齢別では、「買い物の利便性」は 40 歳代以下で、「下水道の整備状況」は 60～70 歳代で、「ごみの収集・処理の状況」は 60 歳代で多くなっている。

(%)

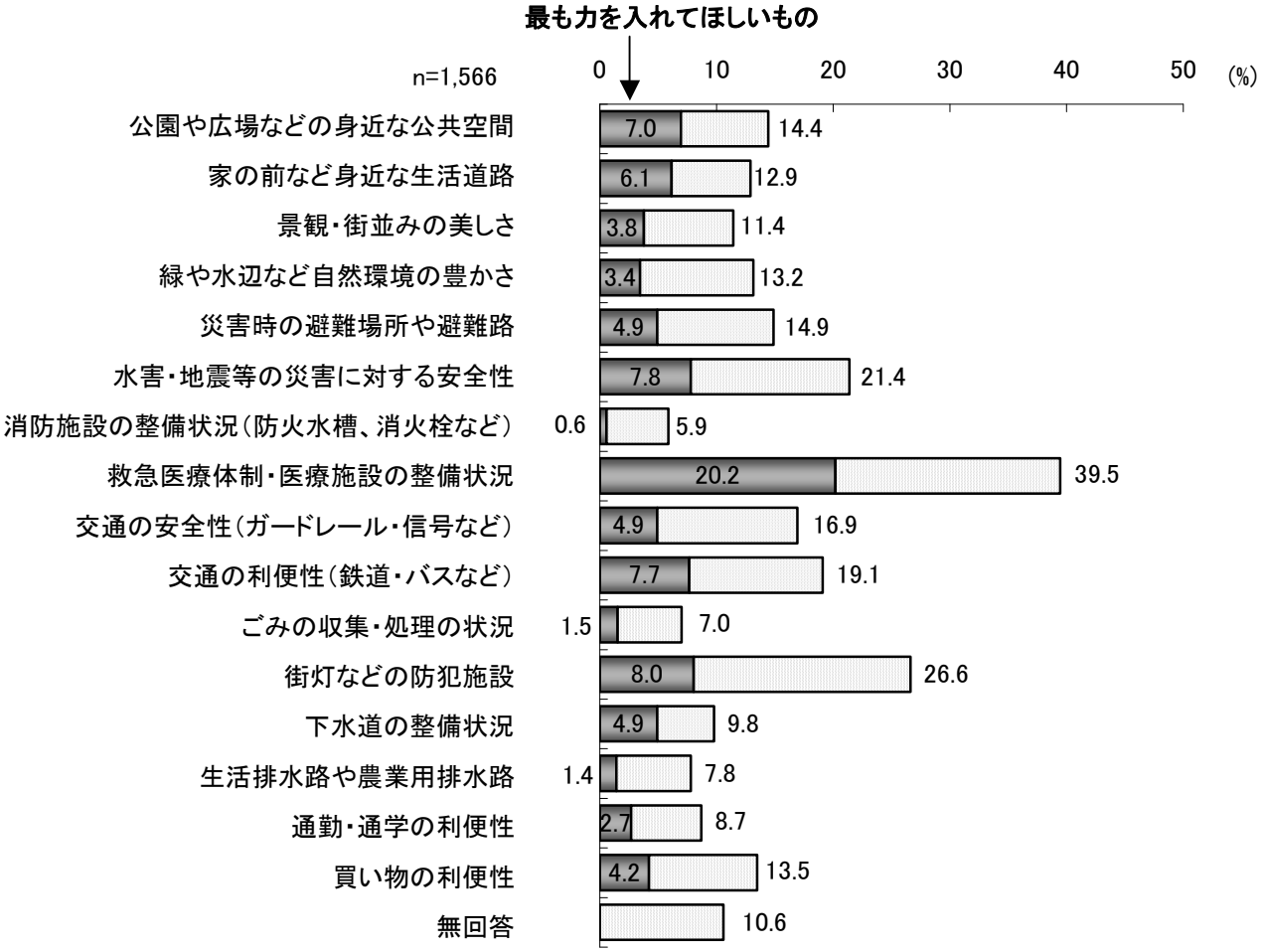
		n	公園や広場などの身近な公共空間	家の前など身近な生活道路	景観・街並みの美しさ	緑や水辺など自然環境の豊かさ	災害時の避難場所や避難路	水害・地震等の災害に対する安全性	消防施設の整備状況（防火水槽、消火栓など）	救急医療体制・医療施設の整備状況	交通の安全性（ガードレール・信号など）
全体		1,566	12.7	20.5	11.2	9.5	4.3	3.2	4.0	8.7	9.0
居住地区	本町地区	136	▼ 7.4	△ 27.2	8.8	8.8	7.4	3.7	4.4	△ 14.0	8.1
	中央・南地区	69	▼ 7.2	● 10.1	11.6	5.8	1.4	4.3	4.3	△ 15.9	13.0
	東地区	117	▼ 5.1	17.9	7.7	▼ 4.3	7.7	0.9	5.1	11.1	6.0
	太田地区	253	15.4	▼ 14.2	11.5	11.9	5.1	1.6	3.2	7.5	7.9
	江面地区	64	7.8	25.0	▼ 3.1	6.3	4.7	1.6	△ 12.5	△ 15.6	12.5
	清久地区	43	▼ 7.0	▼ 11.6	9.3	9.3	4.7	2.3	2.3	11.6	7.0
	菖蒲・三箇地区	147	▼ 6.8	△ 27.2	6.8	11.6	2.0	2.7	2.0	6.8	5.4
	小林・栢間地区	62	● 1.6	△ 29.0	▼ 4.8	9.7	1.6	1.6	6.5	6.5	8.1
	栗橋・伊坂地区	150	8.0	24.0	▼ 4.7	8.0	4.0	4.0	3.3	5.3	11.3
	静・豊田地区	103	△ 18.4	17.5	13.6	9.7	4.9	2.9	5.8	9.7	△ 15.5
	鷲宮地区	207	12.1	19.3	12.6	10.6	1.9	4.8	2.9	7.2	10.1
	桜田地区	199	☆ 31.7	22.1	○ 25.1	10.6	5.0	5.0	3.5	6.0	8.0
年齢	18～29 歳	160	16.3	24.4	13.1	8.1	3.1	3.8	1.3	8.8	12.5
	30 歳代	207	14.5	▼ 15.0	14.5	11.6	1.9	2.9	2.4	7.2	7.2
	40 歳代	208	▼ 6.3	18.3	9.6	9.6	3.8	3.8	1.4	9.6	8.2
	50 歳代	310	12.3	23.5	11.0	9.0	5.2	2.3	4.5	8.7	11.3
	60 歳代	384	15.1	21.6	12.0	10.2	4.9	4.4	4.7	8.3	8.1
	70 歳代	213	12.2	21.1	8.5	9.4	5.2	1.9	8.5	9.4	7.5
	80 歳以上	57	8.8	● 10.5	▼ 5.3	5.3	7.0	3.5	5.3	10.5	7.0

		n	交通の利便性（鉄道・バスなど）	ごみの収集・処理の状況	街灯などの防犯施設	下水道の整備状況	生活排水路や農業用排水路	通勤・通学の利便性	買い物の利便性	無回答
全体		1,566	17.4	26.9	9.3	17.9	4.2	10.9	28.9	19.7
居住地区	本町地区	136	19.9	24.3	8.1	△ 24.3	4.4	14.0	26.5	14.0
	中央・南地区	69	☆ 36.2	27.5	△ 14.5	17.4	0.0	△ 20.3	31.9	14.5
	東地区	117	○ 27.4	△ 35.0	7.7	21.4	2.6	△ 17.1	● 15.4	23.9
	太田地区	253	○ 31.6	25.3	13.4	17.0	3.2	△ 16.2	26.1	18.2
	江面地区	64	● 6.3	△ 35.9	14.1	21.9	△ 12.5	▼ 4.7	★ 9.4	20.3
	清久地区	43	18.6	23.3	7.0	○ 32.6	△ 11.6	9.3	● 18.6	18.6
	菖蒲・三箇地区	147	● 2.7	31.3	4.8	15.6	6.1	● 0.0	☆ 55.8	15.6
	小林・栢間地区	62	★ 0.0	☆ 46.8	▼ 3.2	☆ 40.3	○ 14.5	▼ 1.6	★ 12.9	24.2
	栗橋・伊坂地区	150	12.7	25.3	8.0	20.7	4.0	8.7	31.3	22.0
	静・豊田地区	103	▼ 7.8	△ 32.0	6.8	▼ 10.7	1.9	▼ 5.8	▼ 21.4	23.3
	鷲宮地区	207	19.8	22.2	9.7	17.4	2.4	10.1	▼ 20.8	26.6
	桜田地区	199	▼ 11.1	▼ 19.6	9.5	● 6.5	2.0	14.1	☆ 46.2	13.1
年齢	18～29 歳	160	20.0	★ 11.3	7.5	● 5.6	1.3	13.1	△ 36.3	20.0
	30 歳代	207	14.5	▼ 21.7	5.8	▼ 10.1	1.0	8.2	○ 40.6	16.9
	40 歳代	208	17.8	▼ 21.2	6.3	13.0	2.4	13.0	△ 34.1	21.6
	50 歳代	310	16.8	28.7	8.4	19.4	7.4	12.3	31.9	13.9
	60 歳代	384	17.4	△ 36.2	11.5	△ 24.2	4.7	11.5	25.3	17.7
	70 歳代	213	21.6	31.5	11.7	△ 24.9	5.2	8.5	● 16.0	25.4
	80 歳以上	57	▼ 8.8	26.3	14.0	22.8	7.0	▼ 5.3	★ 8.8	36.8

（２）今後市に力を入れてほしいこと

居住地域の生活環境について、今後市に力を入れてほしいものとしては、「救急医療体制・利用施設の整備状況」（39.5%）が最も多く、４割弱を占めている。また、最も力を入れてほしい割合も２割と多い。ついで、「街灯などの防犯施設」（26.6%）、「水害・地震等の災害に対する安全性」（21.4%）が２割台となっている。

（2）問 22 の項目の中（1～16）から、今後、久喜市に力を入れてほしいものを3つまで選んで、次の欄にその番号を記入してください。
※ その中で、最も力を入れてほしいものは一番左の欄に記入してください。



≪居住地区、年齢別　今後市に力を入れてほしいこと≫

居住地区別にみると、「交通の利便性（鉄道・バスなど）」は菖蒲・三箇地区と小林・栢間地区で、「通勤・通学の利便性」と「買い物の利便性」は小林・栢間地区で多くなっている。全体で最も多かった「救急医療体制・医療施設の整備状況」については、太田地区と菖蒲・三箇地区で５割弱とやや多い。

年齢別では、18～29 歳で「景観・街並みの美しさ」「街灯などの防犯施設」「通勤・通学の利便性」「買い物の利便性」、30 歳代では「公園や広場などの身近な公共空間」「交通の安全性（ガードレール・信号など）」をあげる人がやや多い。

(%)

		n	公園や広場などの身近な公共空間	家の前など身近な生活道路	景観・街並みの美しさ	緑や水辺など自然環境の豊かさ	災害時の避難場所や避難路	水害・地震等の災害に対する安全性	消防施設の整備状況（防火水槽、消火栓など）	救急医療体制・医療施設の整備状況	交通の安全性（ガードレール・信号など）
全体		1,566	14.4	12.9	11.4	13.2	14.9	21.4	5.9	39.5	16.9
居住地区	本町地区	136	△ 24.3	16.2	△ 17.6	△ 20.6	15.4	22.1	5.9	41.9	16.9
	中央・南地区	69	○ 29.0	○ 27.5	15.9	○ 26.1	△ 20.3	▼ 14.5	5.8	34.8	17.4
	東地区	117	14.5	12.8	16.2	△ 18.8	△ 20.5	23.1	4.3	43.6	△ 25.6
	太田地区	253	13.0	10.7	9.5	13.0	15.4	25.7	6.7	△ 46.2	14.6
	江面地区	64	▼ 9.4	○ 25.0	12.5	▼ 4.7	▼ 9.4	▼ 15.6	3.1	▼ 29.7	17.2
	清久地区	43	14.0	△ 20.9	7.0	▼ 7.0	16.3	▼ 14.0	7.0	● 25.6	△ 25.6
	菖蒲・三箇地区	147	▼ 6.8	▼ 6.1	▼ 6.1	▼ 4.1	▼ 8.8	● 8.8	5.4	△ 46.3	▼ 10.9
	小林・栢間地区	62	11.3	▼ 4.8	6.5	● 3.2	▼ 6.5	● 8.1	3.2	37.1	▼ 11.3
	栗橋・伊坂地区	150	△ 22.0	10.0	13.3	16.0	18.0	25.3	5.3	42.7	14.7
	静・豊田地区	103	11.7	11.7	6.8	9.7	15.5	26.2	5.8	35.9	13.6
	鷲宮地区	207	15.5	14.5	10.6	△ 18.4	12.6	△ 26.6	6.3	▼ 31.4	20.8
	桜田地区	199	▼ 8.5	11.6	14.1	9.5	18.1	23.6	8.0	40.7	19.6
年齢	18～29 歳	160	15.6	8.8	△ 18.1	11.3	10.0	17.5	5.0	▼ 33.1	17.5
	30 歳代	207	△ 19.8	9.2	11.6	12.1	14.0	19.3	3.4	37.7	△ 24.6
	40 歳代	208	16.8	17.3	13.5	12.5	11.5	17.3	3.4	44.2	20.7
	50 歳代	310	12.3	13.9	11.3	11.6	19.7	24.2	6.8	43.2	18.4
	60 歳代	384	14.8	13.3	9.1	17.7	13.8	24.5	8.3	41.1	13.5
	70 歳代	213	10.8	16.0	10.3	10.3	18.8	23.0	6.1	34.7	▼ 11.3
	80 歳以上	57	▼ 7.0	▼ 5.3	7.0	14.0	12.3	▼ 14.0	7.0	35.1	12.3

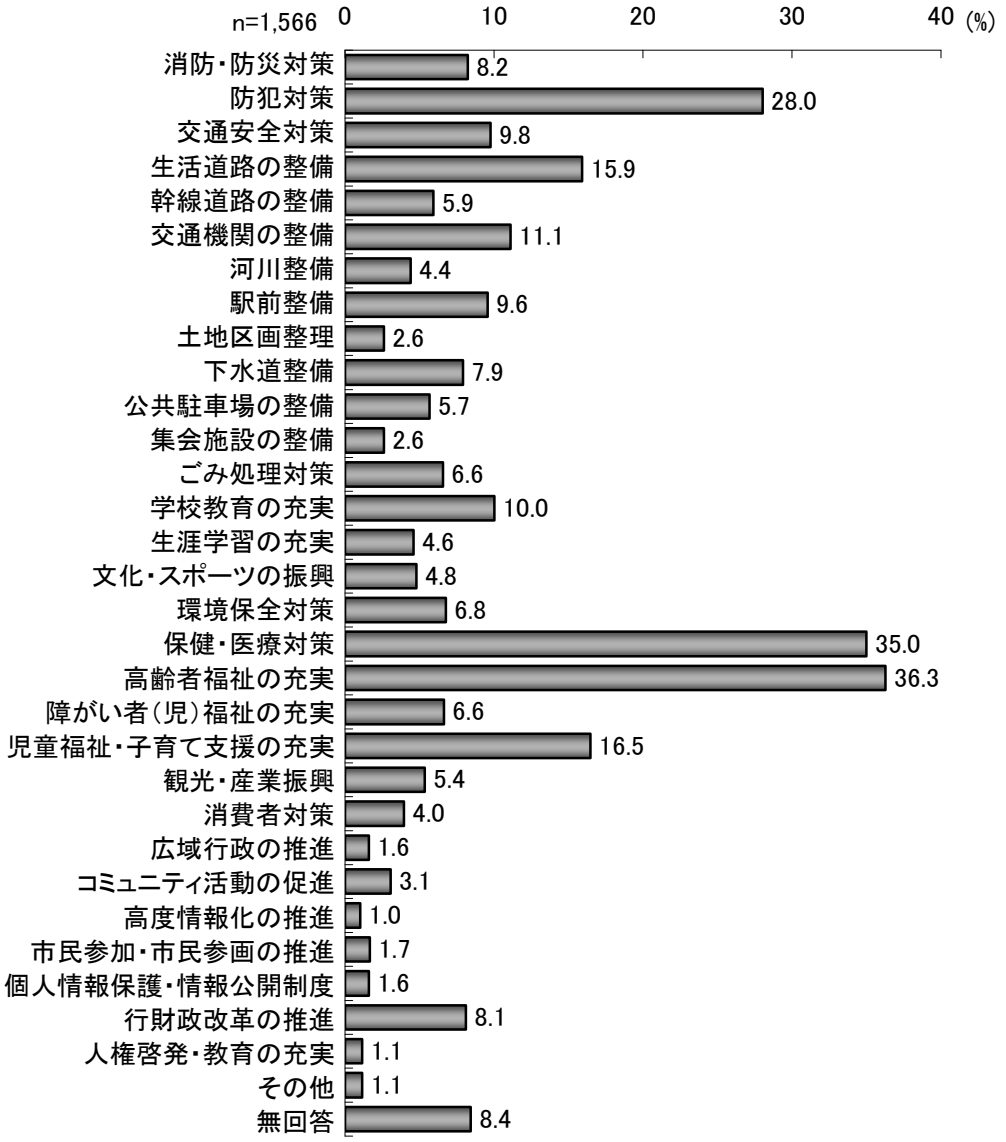
		n	交通の利便性（鉄道・バスなど）	ごみの収集・処理の状況	街灯などの防犯施設	下水道の整備状況	生活排水路や農業用排水路	通勤・通学の利便性	買い物の利便性	無回答
全体		1,566	19.1	7.0	26.6	9.8	7.8	8.7	13.5	10.6
居住地区	本町地区	136	▼ 12.5	5.9	24.3	5.1	3.7	▼ 3.7	10.3	11.0
	中央・南地区	69	● 7.2	10.1	▼ 18.8	▼ 2.9	2.9	4.3	14.5	8.7
	東地区	117	▼ 13.7	5.1	23.1	6.8	4.3	▼ 3.4	12.0	9.4
	太田地区	253	● 9.1	10.7	25.3	7.5	5.9	4.3	15.4	12.6
	江面地区	64	18.8	6.3	25.0	△ 15.6	○ 20.3	12.5	○ 28.1	12.5
	清久地区	43	▼ 11.6	△ 14.0	27.9	7.0	▼ 2.3	4.7	9.3	16.3
	菖蒲・三箇地区	147	☆ 51.0	5.4	26.5	△ 15.6	8.2	○ 23.1	▼ 6.1	11.6
	小林・栢間地区	62	☆ 40.3	3.2	▼ 19.4	8.1	9.7	☆ 27.4	☆ 30.6	12.9
	栗橋・伊坂地区	150	▼ 12.0	6.0	△ 34.0	14.0	6.0	7.3	10.7	7.3
	静・豊田地区	103	21.4	5.8	24.3	△ 16.5	△ 15.5	10.7	△ 20.4	6.8
	鷲宮地区	207	17.4	5.8	26.6	8.2	6.8	5.8	14.5	10.6
	桜田地区	199	21.6	7.0	△ 34.2	10.1	11.1	7.5	▼ 8.5	6.5
年齢	18～29 歳	160	20.0	6.3	△ 33.1	5.6	3.8	△ 15.0	△ 18.8	8.1
	30 歳代	207	22.7	8.2	30.9	9.7	7.2	12.6	13.0	4.8
	40 歳代	208	19.2	7.2	31.3	7.7	6.3	12.0	16.8	5.3
	50 歳代	310	20.3	7.7	28.1	10.6	8.1	8.4	10.0	5.8
	60 歳代	384	18.5	9.1	24.2	13.0	10.4	4.4	13.0	12.0
	70 歳代	213	16.4	2.8	▼ 21.6	9.4	9.4	5.2	13.1	17.8
	80 歳以上	57	▼ 14.0	▼ 0.0	★ 8.8	7.0	5.3	10.5	12.3	33.3

11. 都市づくりについて

11-1. 市政全般において充実してほしいもの

市政全般において充実してほしいものとしては、「高齢者福祉の充実」(36.3%)、「保健・医療対策」(35.0%)、「防犯対策」(28.0%) の３つが上位にあげられている。

問 24 あなたは、市政全般において、次の中で何を充実してほしいと思いますか。充実してほしいものを3つまで選んで○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　市政全般において充実してほしいもの（上位１２項目）≫

居住地区別にみると、「交通機関の整備」は菖蒲・三箇地区と小林・栢間地区で３割と多い。

年齢別では、「高齢者福祉の充実」は 60 歳以上、「児童福祉・子育て支援の充実」は 30 歳代で特に多くなっている。

(%)

		n	高齢者福祉の充実	保健・医療対策	防犯対策	児童福祉・子育て支援の充実	生活道路の整備	交通機関の整備
全体		1,566	36.3	35.0	28.0	16.5	15.9	11.1
居住地区	本町地区	136	33.8	33.1	28.7	18.4	18.4	▼ 5.9
	中央・南地区	69	39.1	▼ 29.0	29.0	△ 21.7	△ 23.2	▼ 1.4
	東地区	117	38.5	32.5	29.1	19.7	17.1	▼ 6.0
	太田地区	253	38.3	△ 40.3	29.2	19.4	14.6	▼ 5.9
	江面地区	64	37.5	★ 15.6	▼ 21.9	14.1	○ 29.7	▼ 4.7
	清久地区	43	○ 48.8	37.2	27.9	14.0	○ 27.9	9.3
	菖蒲・三箇地区	147	34.7	39.5	25.9	12.2	14.3	☆ 30.6
	小林・栢間地区	62	35.5	30.6	● 17.7	▼ 8.1	16.1	☆ 30.6
	栗橋・伊坂地区	150	34.7	38.0	25.3	18.7	12.7	8.7
	静・豊田地区	103	33.0	34.0	32.0	11.7	17.5	13.6
	鷲宮地区	207	34.3	34.3	28.5	14.5	16.9	10.6
	桜田地区	199	38.2	37.7	△ 33.2	18.6	▼ 7.5	10.1
年齢	18～29 歳	160	★ 19.4	34.4	29.4	△ 24.4	13.8	13.1
	30 歳代	207	★ 18.8	35.7	△ 34.3	☆ 44.4	14.5	12.1
	40 歳代	208	● 24.0	36.5	△ 34.1	20.2	13.9	15.4
	50 歳代	310	36.1	35.2	25.2	▼ 9.7	△ 23.5	11.0
	60 歳代	384	○ 49.2	36.2	26.8	▼ 9.6	15.1	9.6
	70 歳代	213	☆ 51.6	31.5	23.9	● 6.1	12.2	8.5
	80 歳以上	57	○ 47.4	35.1	24.6	● 5.3	19.3	8.8

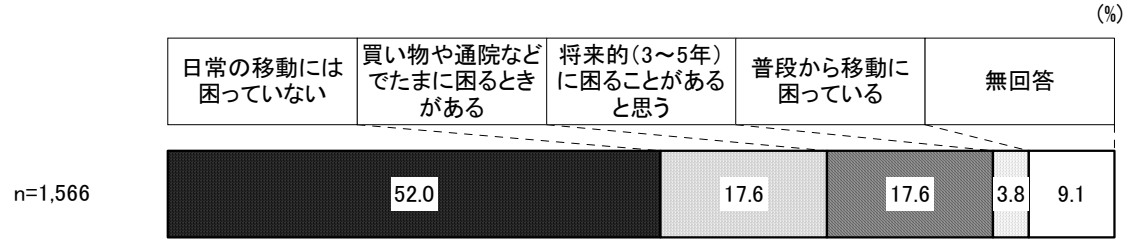
		n	学校教育の充実	交通安全対策	駅前整備	消防・防災対策	行財政改革の推進	下水道整備
全体		1,566	10.0	9.8	9.6	8.2	8.1	7.9
居住地区	本町地区	136	11.0	11.8	10.3	7.4	8.8	▼ 2.9
	中央・南地区	69	8.7	11.6	13.0	7.2	7.2	▼ 1.4
	東地区	117	△ 15.4	14.5	10.3	7.7	6.0	6.0
	太田地区	253	10.7	10.3	6.7	8.7	8.3	6.7
	江面地区	64	9.4	12.5	4.7	9.4	7.8	△ 14.1
	清久地区	43	▼ 2.3	7.0	4.7	▼ 0.0	11.6	9.3
	菖蒲・三箇地区	147	△ 15.0	6.1	▼ 2.7	9.5	6.1	△ 13.6
	小林・栢間地区	62	8.1	14.5	▼ 1.6	4.8	3.2	3.2
	栗橋・伊坂地区	150	8.7	7.3	△ 16.7	9.3	7.3	11.3
	静・豊田地区	103	7.8	8.7	△ 14.6	7.8	5.8	△ 14.6
	鷲宮地区	207	8.2	10.6	7.7	10.1	9.2	4.8
	桜田地区	199	9.5	7.0	△ 15.6	8.0	11.6	8.5
年齢	18～29 歳	160	7.5	△ 15.0	△ 15.6	12.5	5.0	5.0
	30 歳代	207	△ 19.3	10.1	10.1	4.8	▼ 1.9	9.2
	40 歳代	208	△ 18.3	13.0	13.0	9.1	4.3	5.8
	50 歳代	310	6.8	6.5	10.3	8.4	9.4	7.7
	60 歳代	384	7.0	10.2	6.3	8.3	△ 13.3	10.7
	70 歳代	213	8.0	7.0	6.6	6.1	8.5	8.0
	80 歳以上	57	● 0.0	8.8	5.3	△ 14.0	3.5	5.3

12. 公共交通について

12-1. 日常生活の移動のしやすさ

日常生活における移動のしやすさについて、「日常の移動には困っていない」（52.0%）とする人が半数を占めている。「買い物や通院などでたまに困るときがある」（17.6%）や「将来的（3～5 年）に困ることがあると思う」（17.6%）とする人はそれぞれ２割弱となっている。

問 27 あなたの日常生活における移動のしやすさについておたずねします。次の中からあてはまるもの１つ選んで○印をしてください。



≪居住地区、年齢別　日常生活の移動のしやすさ≫

居住地区別にみると、「買い物や通院などでたまに困るときがある」は小林・栢間地区と静・豊田地区でやや多く、４人に１人の割合となっている。「将来的（3～5 年）に困ることがあると思う」との回答は、江面地区、清久地区、菖蒲・三箇地区、小林・栢間地区で 25%前後とやや多い。

年齢別では、50 歳代以下では「日常の移動には困っていない」との回答が６割前後と多いが、70 歳以上では３割未満と少ない。80 歳以上では「買い物や通院などでたまに困るときがある」が４割弱、70 歳代では「将来的（3～5 年）に困ることがあると思う」が３割弱と多くなっている。

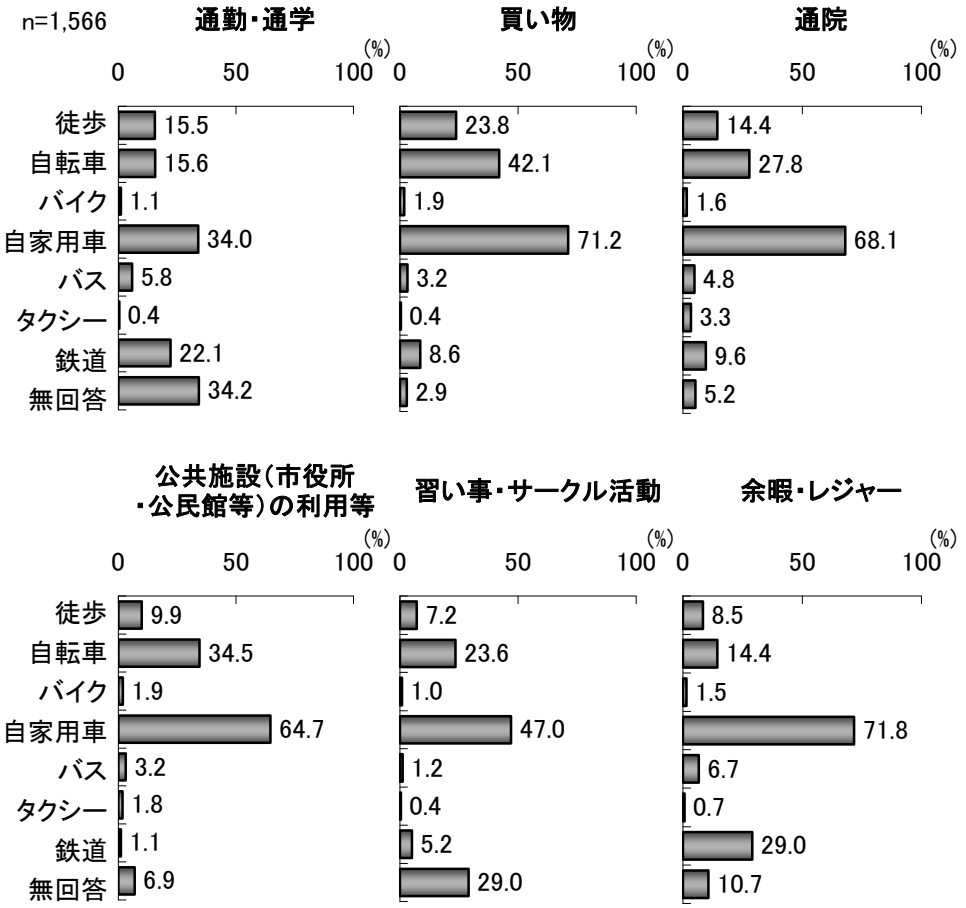
(%)

		n	日常の移動には困っていない	買い物や通院などでたまに困るときがある	将来的（3～5年）に困ることがあると思う	普段から移動に困っている	無回答
全体		1,566	52.0	17.6	17.6	3.8	9.1
居住地区	本町地区	136	○ 62.5	13.2	16.2	2.2	5.9
	中央・南地区	69	○ 65.2	17.4	▼ 10.1	0.0	7.2
	東地区	117	△ 58.1	▼ 12.0	18.8	2.6	8.5
	太田地区	253	56.9	18.6	13.0	2.0	9.5
	江面地区	64	★ 34.4	20.3	△ 23.4	6.3	15.6
	清久地区	43	● 37.2	20.9	○ 27.9	2.3	11.6
	菖蒲・三箇地区	147	★ 36.7	19.7	△ 23.1	△ 10.9	9.5
	小林・栢間地区	62	★ 29.0	△ 25.8	△ 24.2	8.1	12.9
	栗橋・伊坂地区	150	51.3	16.7	20.7	3.3	8.0
	静・豊田地区	103	▼ 42.7	△ 25.2	19.4	6.8	5.8
	鷲宮地区	207	54.6	16.4	18.8	2.9	7.2
	桜田地区	199	○ 63.3	14.6	▼ 11.6	1.5	9.0
年齢	18～29 歳	160	○ 62.5	20.0	● 6.9	△ 8.8	1.9
	30 歳代	207	△ 57.5	△ 24.2	▼ 8.2	2.4	7.7
	40 歳代	208	○ 65.4	16.8	▼ 9.1	4.8	3.8
	50 歳代	310	△ 60.3	13.2	16.1	2.6	7.7
	60 歳代	384	48.4	▼ 12.0	△ 27.3	2.6	9.6
	70 歳代	213	★ 29.1	19.7	○ 29.6	3.8	17.8
	80 歳以上	57	★ 22.8	☆ 38.6	15.8	5.3	17.5

12-2. 日常生活の移動手段

日常的な移動手段について、どの場面でも「自家用車」での移動が最も多くなっている。ついで、「自転車」や「徒歩」が多くなっているが、通勤・通学や余暇・レジャーでは「鉄道」を使う人が２割台と多くなっている。

問 28　あなたの日常的な移動についておたずねします。次の 1～6 の各目的で移動する場合の交通手段を、あてはまるものすべてに○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　日常生活の移動手段≫

居住地区別にみても、各地区とも通勤・通学を除いてはどの場面でも「自家用車」での移動が最も多くなっている。

年齢別にみると、30～50 歳代は「自家用車」での移動が中心となっている。

通勤・通学　(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
全体		1,566	15.5	15.6	1.1	34.0	5.8	0.4	22.1	34.2
居住地区	本町地区	136	15.4	○ 27.9	0.0	30.9	5.9	0.0	▼ 15.4	35.3
	中央・南地区	69	△ 24.6	▼ 7.2	0.0	★ 13.0	▼ 0.0	1.4	○ 34.8	39.1
	東地区	117	△ 23.9	17.9	0.0	▼ 26.5	8.5	0.0	23.9	36.8
	太田地区	253	17.8	17.4	0.8	30.8	10.3	0.0	20.6	34.8
	江面地区	64	10.9	○ 29.7	△ 6.3	△ 43.8	6.3	4.7	● 10.9	34.4
	清久地区	43	▼ 9.3	▼ 9.3	0.0	○ 46.5	9.3	0.0	● 9.3	41.9
	菖蒲・三箇地区	147	▼ 6.8	▼ 7.5	2.0	○ 48.3	△ 14.3	0.7	● 10.9	33.3
	小林・栢間地区	62	▼ 9.7	11.3	0.0	☆ 51.6	9.7	0.0	▼ 16.1	33.9
	栗橋・伊坂地区	150	16.0	14.7	0.7	32.7	2.0	0.0	△ 29.3	33.3
	静・豊田地区	103	15.5	▼ 9.7	1.9	△ 40.8	1.0	0.0	26.2	28.2
	鷲宮地区	207	11.6	16.9	1.9	34.8	1.9	0.5	20.8	34.8
	桜田地区	199	19.6	13.6	1.0	▼ 27.6	1.0	0.0	○ 33.7	29.6
年齢	18～29 歳	160	☆ 31.3	☆ 31.3	3.1	36.3	△ 11.9	0.6	☆ 51.9	5.6
	30 歳代	207	△ 21.7	18.4	1.0	☆ 50.2	2.9	0.0	24.6	11.6
	40 歳代	208	17.8	15.9	1.9	☆ 49.0	8.2	0.0	△ 28.4	13.0
	50 歳代	310	15.8	18.4	0.6	○ 48.7	6.5	0.6	21.9	21.3
	60 歳代	384	12.2	12.0	1.3	● 23.7	5.2	0.5	▼ 16.1	49.7
	70 歳代	213	● 5.2	▼ 7.5	0.0	★ 8.0	2.8	0.5	● 8.9	72.3
	80 歳以上	57	★ 0.0	● 1.8	0.0	★ 7.0	5.3	0.0	★ 0.0	86.0

買い物　(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
全体		1,566	23.8	42.1	1.9	71.2	3.2	0.4	8.6	2.9
居住地区	本町地区	136	△ 30.9	○ 56.6	0.0	▼ 61.8	5.1	0.7	6.6	2.2
	中央・南地区	69	☆ 40.6	○ 55.1	1.4	● 58.0	2.9	1.4	11.6	0.0
	東地区	117	○ 35.0	○ 53.8	0.9	72.6	2.6	0.0	9.4	1.7
	太田地区	253	24.5	△ 51.4	0.4	69.6	5.5	0.4	7.9	0.8
	江面地区	64	★ 4.7	● 31.3	△ 7.8	△ 76.6	3.1	1.6	6.3	3.1
	清久地区	43	★ 2.3	★ 18.6	0.0	☆ 90.7	△ 9.3	0.0	▼ 0.0	2.3
	菖蒲・三箇地区	147	● 12.2	▼ 35.4	4.1	73.5	3.4	0.7	▼ 3.4	5.4
	小林・栢間地区	62	★ 1.6	★ 14.5	3.2	○ 85.5	△ 12.9	0.0	8.1	4.8
	栗橋・伊坂地区	150	24.7	38.0	0.7	76.0	0.0	0.0	10.7	3.3
	静・豊田地区	103	★ 2.9	★ 20.4	2.9	○ 85.4	1.0	0.0	9.7	4.9
	鷲宮地区	207	19.3	44.4	2.9	▼ 65.2	0.0	0.5	8.7	4.3
	桜田地区	199	☆ 46.7	43.7	1.5	68.8	1.0	0.0	△ 14.6	0.5
年齢	18～29 歳	160	27.5	46.3	3.1	73.8	3.1	0.6	○ 21.3	0.6
	30 歳代	207	21.7	▼ 36.2	1.4	○ 83.1	1.9	0.0	4.8	1.4
	40 歳代	208	24.5	37.5	1.4	○ 82.2	3.8	0.0	9.6	0.0
	50 歳代	310	22.9	▼ 36.8	1.6	△ 80.3	3.2	0.3	8.1	0.0
	60 歳代	384	23.4	△ 50.0	2.6	69.0	2.9	0.5	8.3	1.8
	70 歳代	213	24.9	46.9	1.4	★ 48.8	2.3	0.5	5.2	8.5
	80 歳以上	57	22.8	● 28.1	0.0	★ 42.1	7.0	1.8	▼ 3.5	21.1

通院

(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
全体		1,566	14.4	27.8	1.6	68.1	4.8	3.3	9.6	5.2
居住地区	本町地区	136	△ 21.3	☆ 47.8	0.0	▼ 58.8	2.9	3.7	9.6	2.9
	中央・南地区	69	○ 27.5	31.9	0.0	★ 50.7	0.0	5.8	△ 15.9	10.1
	東地区	117	○ 28.2	△ 36.8	0.9	▼ 59.8	2.6	0.9	11.1	6.8
	太田地区	253	14.2	30.0	0.4	67.6	9.1	4.3	8.7	3.6
	江面地区	64	● 3.1	26.6	△ 7.8	△ 76.6	3.1	3.1	6.3	3.1
	清久地区	43	● 2.3	★ 11.6	0.0	☆ 88.4	△ 11.6	2.3	9.3	7.0
	菖蒲・三箇地区	147	● 4.1	★ 11.6	2.7	○ 78.2	△ 13.6	3.4	▼ 3.4	5.4
	小林・栢間地区	62	● 3.2	● 17.7	3.2	△ 77.4	△ 14.5	1.6	11.3	4.8
	栗橋・伊坂地区	150	10.7	26.7	0.7	71.3	0.0	2.7	9.3	5.3
	静・豊田地区	103	▼ 5.8	★ 11.7	1.9	☆ 83.5	0.0	1.0	9.7	3.9
	鷲宮地区	207	11.6	32.4	1.9	64.7	2.4	3.4	10.6	6.3
	桜田地区	199	○ 25.6	28.1	2.0	64.3	1.5	5.0	12.6	3.5
年齢	18～29 歳	160	12.5	28.1	3.8	70.0	3.1	1.3	8.1	4.4
	30 歳代	207	▼ 9.2	▼ 19.8	0.5	○ 79.7	3.9	1.4	7.2	1.9
	40 歳代	208	12.5	23.6	1.4	○ 81.3	4.8	2.4	8.7	1.9
	50 歳代	310	16.5	23.2	1.0	△ 76.8	3.5	1.6	8.7	3.2
	60 歳代	384	17.7	△ 35.4	2.1	▼ 61.7	4.4	3.9	12.0	4.9
	70 歳代	213	16.0	△ 36.2	1.4	★ 50.2	6.6	5.6	13.6	10.3
	80 歳以上	57	12.3	▼ 21.1	0.0	★ 43.9	△ 14.0	○ 15.8	▼ 1.8	14.0

公共施設(市役所・公民館等)の利用等

(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
全体		1,566	9.9	34.5	1.9	64.7	3.2	1.8	1.1	6.9
居住地区	本町地区	136	△ 18.4	○ 47.8	0.0	● 54.4	2.2	0.7	0.0	6.6
	中央・南地区	69	☆ 33.3	☆ 50.7	1.4	★ 42.0	2.9	1.4	1.4	2.9
	東地区	117	12.8	36.8	0.9	61.5	6.0	0.0	0.0	6.8
	太田地区	253	6.3	36.4	0.4	66.0	△ 8.3	3.2	0.0	5.9
	江面地区	64	9.4	△ 40.6	△ 7.8	60.9	3.1	3.1	1.6	6.3
	清久地区	43	7.0	● 20.9	0.0	△ 74.4	△ 11.6	2.3	0.0	11.6
	菖蒲・三箇地区	147	7.5	30.6	3.4	65.3	2.7	1.4	0.0	10.2
	小林・栢間地区	62	▼ 1.6	★ 19.4	3.2	○ 77.4	3.2	0.0	0.0	6.5
	栗橋・伊坂地区	150	9.3	36.0	1.3	60.0	0.7	0.7	2.7	8.7
	静・豊田地区	103	▼ 3.9	★ 18.4	2.9	☆ 84.5	0.0	1.9	1.0	4.9
	鷲宮地区	207	▼ 4.3	35.3	1.9	61.8	1.0	1.9	1.4	8.2
	桜田地区	199	13.6	31.2	2.0	△ 73.4	0.5	3.0	3.0	2.5
年齢	18～29 歳	160	6.9	38.8	4.4	67.5	2.5	0.6	1.3	1.9
	30 歳代	207	8.2	▼ 28.5	1.4	☆ 79.7	1.4	0.5	0.5	3.4
	40 歳代	208	9.1	32.2	1.4	○ 79.3	3.4	1.9	0.0	1.0
	50 歳代	310	11.6	▼ 28.4	1.0	○ 77.4	1.9	0.6	0.6	2.3
	60 歳代	384	11.5	△ 41.9	2.3	▼ 59.4	3.4	1.0	1.8	5.5
	70 歳代	213	10.3	39.0	1.4	★ 38.5	4.7	5.2	1.9	17.8
	80 歳以上	57	7.0	★ 19.3	0.0	★ 29.8	△ 12.3	△ 7.0	0.0	38.6

習い事・サークル活動

(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
	全体	1,566	7.2	23.6	1.0	47.0	1.2	0.4	5.2	29.0
居住地区	本町地区	136	8.1	○ 38.2	0.0	42.6	0.7	0.0	5.1	26.5
	中央・南地区	69	○ 21.7	27.5	0.0	★ 27.5	1.4	0.0	10.1	30.4
	東地区	117	△ 15.4	△ 33.3	0.9	▼ 38.5	2.6	0.0	9.4	29.9
	太田地区	253	7.1	27.3	0.0	43.9	2.4	0.0	4.0	31.2
	江面地区	64	▼ 1.6	△ 29.7	△ 7.8	50.0	1.6	1.6	1.6	28.1
	清久地区	43	4.7	● 9.3	0.0	○ 58.1	4.7	0.0	▼ 0.0	37.2
	菖蒲・三箇地区	147	▼ 2.0	▼ 17.7	2.0	△ 56.5	1.4	0.0	0.7	26.5
	小林・栢間地区	62	▼ 0.0	● 9.7	0.0	○ 61.3	0.0	1.6	▼ 0.0	30.6
	栗橋・伊坂地区	150	7.3	22.0	0.7	46.0	0.0	0.0	4.7	32.0
	静・豊田地区	103	3.9	★ 5.8	0.0	☆ 62.1	0.0	1.0	7.8	25.2
	鷲宮地区	207	3.4	24.2	1.0	44.0	0.5	1.0	5.3	30.9
	桜田地区	199	11.1	21.6	1.0	48.2	0.5	0.5	9.0	23.1
年齢	18～29 歳	160	8.1	○ 34.4	2.5	50.0	1.3	0.0	9.4	16.3
	30 歳代	207	4.3	▼ 16.9	0.5	☆ 62.3	1.0	0.5	6.3	21.7
	40 歳代	208	7.2	▼ 15.4	0.5	○ 60.6	1.4	0.0	5.3	21.6
	50 歳代	310	8.1	▼ 16.8	0.3	○ 61.0	0.3	0.0	3.9	22.9
	60 歳代	384	7.6	△ 29.9	1.6	▼ 39.3	1.8	0.3	5.7	31.0
	70 歳代	213	8.0	△ 31.5	0.5	★ 20.2	0.5	1.4	2.3	46.9
	80 歳以上	57	8.8	● 12.3	0.0	★ 19.3	3.5	1.8	1.8	61.4

余暇・レジャー

(%)

		n	徒歩	自転車	バイク	自家用車	バス	タクシー	鉄道	無回答
	全体	1,566	8.5	14.4	1.5	71.8	6.7	0.7	29.0	10.7
居住地区	本町地区	136	12.5	△ 22.1	0.7	▼ 65.4	9.6	1.5	30.9	11.8
	中央・南地区	69	○ 18.8	14.5	2.9	69.6	5.8	0.0	△ 37.7	11.6
	東地区	117	○ 18.8	△ 20.5	0.0	68.4	8.5	0.9	33.3	6.8
	太田地区	253	7.9	16.6	0.4	70.8	10.7	0.8	31.2	10.3
	江面地区	64	4.7	△ 23.4	4.7	73.4	6.3	1.6	● 17.2	7.8
	清久地区	43	4.7	▼ 4.7	0.0	76.7	△ 14.0	0.0	▼ 20.9	14.0
	菖蒲・三箇地区	147	4.1	▼ 6.8	2.7	△ 78.2	△ 13.6	0.0	● 17.0	11.6
	小林・栢間地区	62	▼ 1.6	▼ 8.1	3.2	75.8	△ 12.9	1.6	● 17.7	12.9
	栗橋・伊坂地区	150	11.3	13.3	0.7	72.7	2.0	0.0	31.3	12.0
	静・豊田地区	103	3.9	▼ 5.8	1.0	○ 83.5	▼ 1.0	0.0	28.2	5.8
	鷲宮地区	207	4.3	14.0	1.4	67.6	▼ 1.0	1.0	▼ 23.2	13.0
	桜田地区	199	9.5	16.1	2.0	72.9	2.0	1.0	○ 43.7	8.0
年齢	18～29 歳	160	△ 13.8	○ 27.5	3.1	71.9	5.0	0.0	○ 43.1	2.5
	30 歳代	207	5.8	▼ 8.7	1.0	○ 85.0	3.4	1.0	29.0	6.8
	40 歳代	208	8.2	13.0	1.9	○ 85.1	5.8	0.5	33.2	1.9
	50 歳代	310	8.4	11.6	1.0	○ 84.2	7.1	0.3	29.4	4.5
	60 歳代	384	8.3	14.6	1.3	71.6	7.8	1.0	29.7	7.6
	70 歳代	213	8.5	17.4	1.4	★ 41.8	8.9	0.9	● 18.8	29.6
	80 歳以上	57	7.0	▼ 7.0	0.0	★ 36.8	7.0	1.8	★ 8.8	49.1

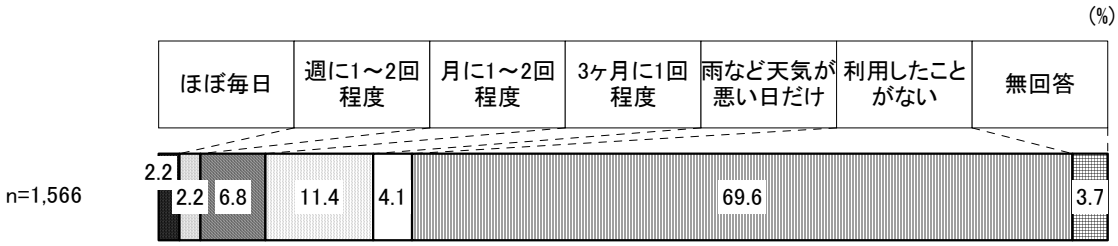
12-3. 市内のバス利用について

（１）路線バスについて

①利用経験

市内の路線バスを「利用したことがない」（69.6%）とする人は７割と多い。利用している頻度は、「3ヶ月に１回程度」が 11.4%と多い。

問 29　久喜市内のバス（民間の路線バス、市内循環バス（久喜区域）、福祉バス（鷲宮区域））の利用についてお聞かせください。
（1）路線バスについて
① 利用したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用経験≫

居住地区別にみると、栗橋・伊坂地区から桜田地区では「利用したことがない」とする人が９割前後と多数を占めている。

年齢別では、30～40 歳代では「利用したことがない」とする人が４人に３人とやや多い。

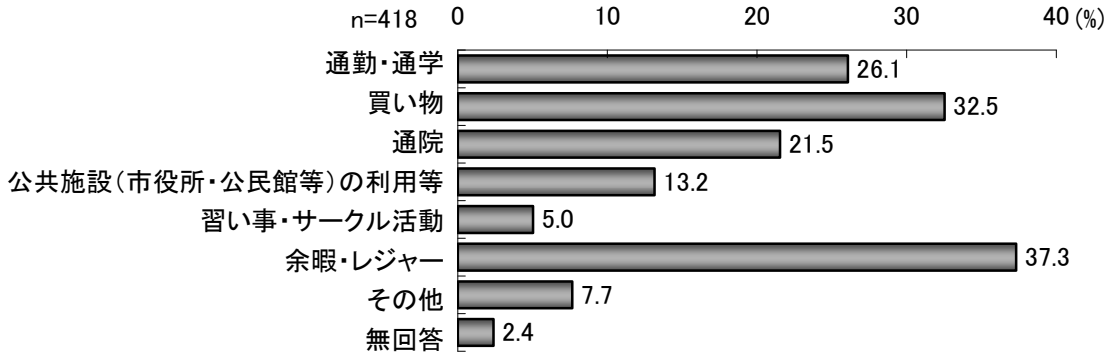
(%)

		n	ほぼ毎日	週に1～2回程度	月に1～2回程度	3ヶ月に1回程度	雨など天気が悪い日だけ	利用したことがない	無回答
全体		1,566	2.2	2.2	6.8	11.4	4.1	69.6	3.7
居住地区	本町地区	136	1.5	5.1	△ 12.5	16.2	8.8	★ 53.7	2.2
	中央・南地区	69	0.0	0.0	5.8	10.1	2.9	○ 81.2	0.0
	東地区	117	0.9	3.4	5.1	12.8	4.3	71.8	1.7
	太田地区	253	6.7	5.1	△ 11.9	△ 17.4	△ 9.9	★ 45.5	3.6
	江面地区	64	0.0	0.0	▼ 1.6	7.8	6.3	○ 79.7	4.7
	清久地区	43	4.7	4.7	△ 14.0	○ 23.3	7.0	★ 46.5	0.0
	菖蒲・三箇地区	147	4.8	2.0	○ 17.0	△ 20.4	1.4	★ 49.0	5.4
	小林・栢間地区	62	1.6	4.8	11.3	△ 21.0	3.2	★ 53.2	4.8
	栗橋・伊坂地区	150	0.7	0.7	▼ 1.3	● 0.7	2.0	☆ 88.0	6.7
	静・豊田地区	103	0.0	1.0	▼ 0.0	● 1.0	1.9	☆ 93.2	2.9
	鷲宮地区	207	1.0	0.0	2.4	7.2	1.9	☆ 85.0	2.4
	桜田地区	199	0.5	0.5	▼ 1.0	6.5	0.0	☆ 88.9	2.5
年齢	18～29 歳	160	6.3	0.6	6.9	10.6	5.6	68.8	1.3
	30 歳代	207	1.9	1.0	2.9	14.0	4.3	73.4	2.4
	40 歳代	208	2.9	1.4	2.9	13.9	1.4	△ 75.0	2.4
	50 歳代	310	1.0	1.9	6.8	13.5	5.2	70.0	1.6
	60 歳代	384	2.3	2.6	8.6	10.2	4.9	69.0	2.3
	70 歳代	213	0.0	5.6	9.9	8.5	2.8	▼ 64.3	8.9
	80 歳以上	57	3.5	1.8	△ 12.3	▼ 5.3	3.5	▼ 63.2	10.5

②利用目的

市内の路線バスを利用している人の利用目的は、「余暇・レジャー」（37.3%）、「買い物」（32.5%）、「通勤・通学」（26.1%）、「通院」（21.5%）の順で多くなっている。

②【①で 1～5 とお答えいただいた方におたずねします。】
主にどのようなときに利用していますか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用目的≫

居住地区別にみると、中央・南地区や東地区、桜田地区で「公共施設（市役所・公民館等）の利用等」が多くなっている。

年齢別では、18～29 歳は「通勤・通学」が５割強と多い。30 歳代は「買い物」や「公共施設（市役所・公民館等）の利用等」、40 歳代は「通勤・通学」や「余暇・レジャー」が多い。70 歳以上では「病院」をあげる人が多くなっている。

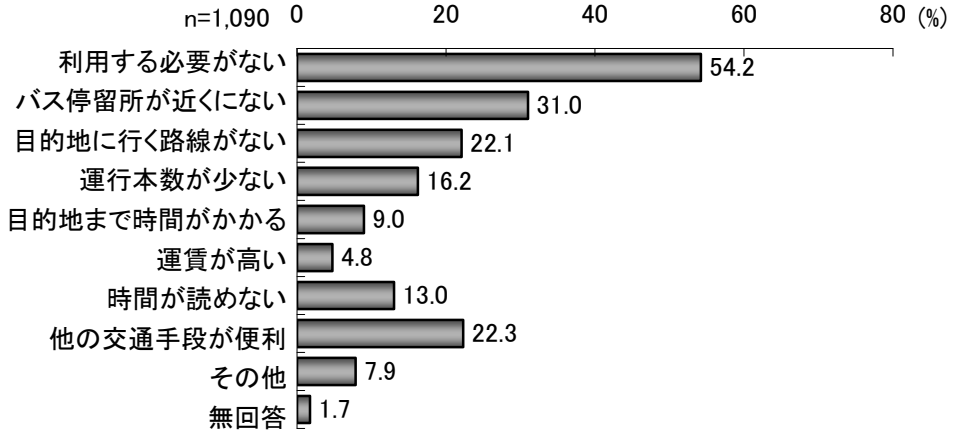
(%)

		n	通勤・通学	買い物	通院	公共施設（市役所・公民館等）の利用等	習い事・サークル活動	余暇・レジャー	その他	無回答
全体		418	26.1	32.5	21.5	13.2	5.0	37.3	7.7	2.4
居住地区	本町地区	60	30.0	△ 40.0	21.7	16.7	1.7	40.0	6.7	0.0
	中央・南地区	13	★ 0.0	△ 38.5	▼ 15.4	☆ 46.2	7.7	▼ 30.8	0.0	0.0
	東地区	31	● 12.9	35.5	▼ 16.1	☆ 29.0	6.5	△ 45.2	9.7	3.2
	太田地区	129	△ 31.8	30.2	20.2	14.7	7.8	38.0	10.1	3.9
	江面地区	10	30.0	30.0	20.0	10.0	▼ 0.0	▼ 30.0	10.0	0.0
	清久地区	23	▼ 17.4	△ 39.1	26.1	● 0.0	▼ 0.0	△ 43.5	8.7	0.0
	菖蒲・三箇地区	67	25.4	28.4	△ 26.9	▼ 4.5	7.5	○ 47.8	7.5	1.5
	小林・栢間地区	26	△ 34.6	34.6	23.1	▼ 3.8	▼ 0.0	34.6	7.7	0.0
	栗橋・伊坂地区	8	☆ 50.0	▼ 25.0	▼ 12.5	● 0.0	▼ 0.0	★ 12.5	0.0	12.5
	静・豊田地区	4	★ 0.0	▼ 25.0	☆ 50.0	● 0.0	☆ 25.0	● 25.0	0.0	0.0
	鷲宮地区	26	▼ 19.2	▼ 23.1	23.1	▼ 3.8	3.8	● 23.1	3.8	7.7
	桜田地区	17	● 11.8	△ 41.2	▼ 11.8	☆ 29.4	▼ 0.0	★ 11.8	5.9	0.0
年齢	18～29 歳	48	☆ 54.2	▼ 27.1	● 8.3	▼ 4.2	4.2	● 27.1	2.1	0.0
	30 歳代	50	26.0	△ 40.0	▼ 16.0	△ 20.0	2.0	36.0	10.0	4.0
	40 歳代	47	△ 34.0	29.8	▼ 14.9	8.5	8.5	☆ 55.3	4.3	0.0
	50 歳代	88	28.4	35.2	▼ 13.6	▼ 6.8	1.1	39.8	9.1	1.1
	60 歳代	110	23.6	30.0	25.5	16.4	6.4	37.3	9.1	2.7
	70 歳代	57	★ 5.3	35.1	☆ 36.8	15.8	8.8	▼ 31.6	7.0	7.0
	80 歳以上	15	★ 0.0	33.3	☆ 66.7	☆ 40.0	▼ 0.0	★ 20.0	6.7	0.0

③利用しない理由

市内の路線バスを利用しない理由は、「利用する必要がない」（54.2%）が最も多く、半数を超えているが、「バス停留所が近くにない」（31.0%）、「目的地に行く路線がない」（22.1%）とする人も２～３割みられる。

③【①で「6.利用したことがない」とお答えいただいた方におたずねします。】
利用しない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用しない理由≫

居住地区別にみると、「バス停留所が近くにない」は静・豊田地区で５割強と多い。

年齢別では、「利用する必要がない」との回答は 18～29 歳で６割強と多い。

(%)

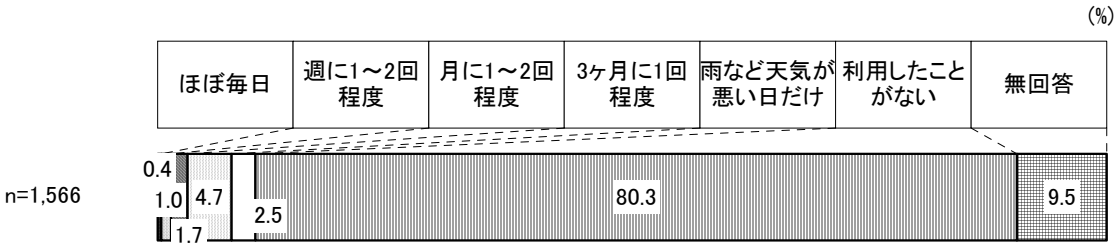
		n	利用する必要がない	バス停留所が近くにない	目的地に行く路線がない	運行本数が少ない	目的地まで時間がかかる	運賃が高い	時間が読めない	他の交通手段が便利	その他	無回答
全体		1,090	54.2	31.0	22.1	16.2	9.0	4.8	13.0	22.3	7.9	1.7
居住地区	本町地区	73	△ 63.0	27.4	▼ 15.1	20.5	12.3	2.7	16.4	17.8	0.0	0.0
	中央・南地区	56	○ 64.3	● 16.1	● 10.7	▼ 8.9	▼ 3.6	7.1	14.3	23.2	3.6	0.0
	東地区	84	○ 64.3	● 20.2	19.0	11.9	10.7	2.4	10.7	○ 34.5	4.8	2.4
	太田地区	115	57.4	● 20.9	17.4	20.9	12.2	3.5	11.3	▼ 16.5	7.8	2.6
	江面地区	51	▼ 45.1	35.3	25.5	17.6	△ 15.7	0.0	☆ 29.4	23.5	7.8	0.0
	清久地区	20	★ 25.0	△ 40.0	★ 0.0	○ 30.0	☆ 25.0	○ 15.0	△ 20.0	☆ 45.0	5.0	10.0
	菖蒲・三箇地区	72	● 41.7	▼ 25.0	22.2	△ 23.6	12.5	○ 19.4	△ 18.1	○ 34.7	9.7	0.0
	小林・栢間地区	33	● 42.4	33.3	○ 33.3	12.1	△ 15.2	○ 18.2	△ 21.2	△ 27.3	0.0	3.0
	栗橋・伊坂地区	132	50.8	33.3	23.5	12.1	6.8	5.3	10.6	△ 29.5	14.4	0.0
	静・豊田地区	96	★ 33.3	☆ 55.2	22.9	▼ 9.4	5.2	0.0	▼ 6.3	▼ 13.5	18.8	4.2
	鷲宮地区	176	△ 60.2	△ 36.9	23.9	16.5	5.1	2.8	13.1	17.6	6.3	1.7
	桜田地区	177	△ 61.6	28.8	△ 28.8	18.1	7.9	2.8	10.2	▼ 16.9	5.6	2.3
年齢	18～29 歳	110	△ 62.7	△ 39.1	▼ 16.4	20.0	9.1	6.4	16.4	24.5	7.3	0.0
	30 歳代	152	54.6	△ 36.8	17.8	15.1	10.5	6.6	16.4	△ 28.3	7.2	2.0
	40 歳代	156	57.1	34.0	26.3	17.9	12.8	7.1	12.8	23.1	5.8	1.3
	50 歳代	217	53.5	35.5	23.5	16.1	7.8	5.1	▼ 7.8	26.3	3.7	0.9
	60 歳代	265	57.0	▼ 26.0	20.4	15.1	6.8	3.0	14.7	17.4	10.6	1.9
	70 歳代	137	▼ 46.7	● 19.7	26.3	12.4	10.2	2.2	10.2	▼ 16.1	11.7	2.9
	80 歳以上	36	★ 27.8	▼ 22.2	△ 27.8	△ 25.0	5.6	2.8	16.7	25.0	13.9	5.6

（２）市内循環バス（久喜区域）について

①利用経験

市内循環バス（久喜区域）を「利用したことがない」（80.3%）とする人は８割と多い。利用している頻度は、「3ヶ月に１回程度」が4.7%とやや多い。

（2）市内循環バス（久喜区域）について
① 利用したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用経験≫

居住地区別にみると、本町地区や東地区では利用経験のある人が４人に１人強とやや多くなっている。

年齢による大きな差はみられず、利用経験のある人は１割前後となっている。

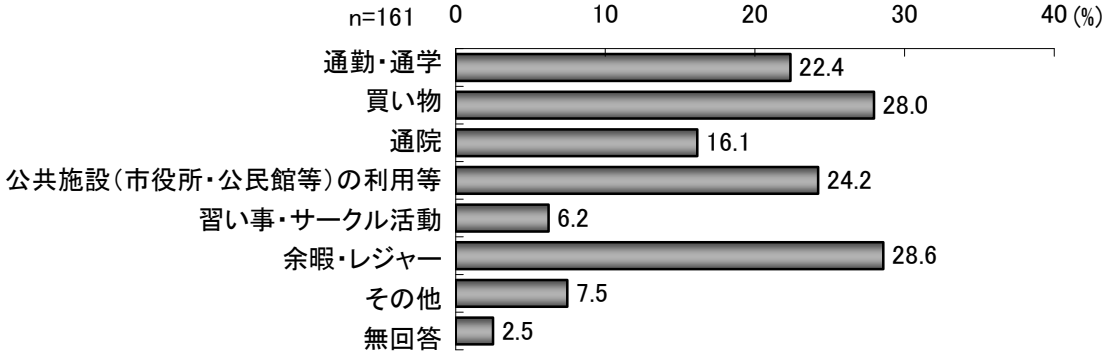
(%)

		n	ほぼ毎日	週に1～2回程度	月に1～2回程度	3ヶ月に1回程度	雨など天気が悪い日だけ	利用したことがない	無回答
全体		1,566	0.4	1.0	1.7	4.7	2.5	80.3	9.5
居住地区	本町地区	136	0.7	2.2	4.4	△ 11.8	6.6	● 69.9	4.4
	中央・南地区	69	0.0	1.4	1.4	8.7	0.0	84.1	4.3
	東地区	117	0.0	4.3	△ 6.8	△ 12.0	4.3	▼ 70.9	1.7
	太田地区	253	1.2	1.6	2.4	5.9	4.3	79.4	5.1
	江面地区	64	0.0	0.0	3.1	△ 10.9	△ 7.8	76.6	1.6
	清久地区	43	0.0	2.3	2.3	2.3	7.0	79.1	7.0
	菖蒲・三箇地区	147	0.7	0.0	0.7	2.7	0.0	▼ 72.8	23.1
	小林・栢間地区	62	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.4	22.6
	栗橋・伊坂地区	150	0.0	0.7	0.0	0.7	0.7	△ 85.3	12.7
	静・豊田地区	103	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	○ 90.3	9.7
	鷲宮地区	207	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	△ 86.0	10.1
	桜田地区	199	0.5	0.5	1.0	2.5	0.0	△ 87.4	8.0
年齢	18～29 歳	160	1.3	0.0	1.3	4.4	3.1	△ 86.3	3.8
	30 歳代	207	1.0	0.0	0.5	4.3	2.4	84.5	7.2
	40 歳代	208	0.0	0.5	1.4	7.7	1.9	84.6	3.8
	50 歳代	310	0.0	0.6	3.2	4.2	2.6	83.5	5.8
	60 歳代	384	0.3	1.3	1.6	4.2	3.1	82.3	7.3
	70 歳代	213	0.0	3.3	1.4	3.8	1.9	● 68.5	21.1
	80 歳以上	57	1.8	1.8	1.8	7.0	1.8	★ 56.1	29.8

②利用目的

市内循環バス（久喜区域）を利用している人の利用目的は、「余暇・レジャー」（28.6%）、「買い物」（28.0%）、「公共施設（市役所・公民館等）の利用等」（24.2%）、「通勤・通学」（22.4%）の順で多くなっている。

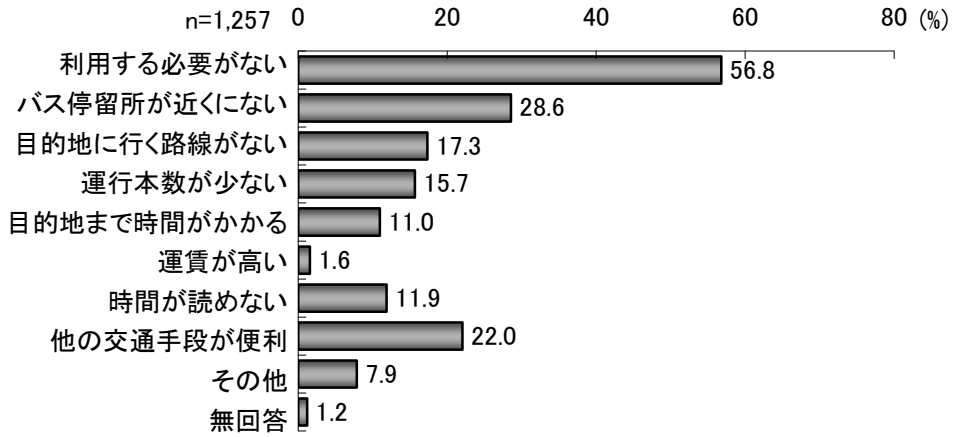
②【①で 1～5 とお答えいただいた方におたずねします。】
主にどのようなときに利用していますか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。



③利用しない理由

市内循環バス（久喜区域）を利用しない理由は、「利用する必要がない」（56.8%）が最も多く、半数を超えているが、「バス停留所が近くにない」（28.6%）とする人も３割弱みられる。

③【①で「6.利用したことがない」とお答えいただいた方におたずねします。】
利用しない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用しない理由≫

居住地区別にみると、「バス停留所が近くにない」は、静・豊田地区で５割強と多い。また、「目的地に行く路線がない」との回答も２割強とやや多くなっている。

年齢別では、18～29 歳では「利用する必要がない」との回答が６割強とやや多くなっている。

(%)

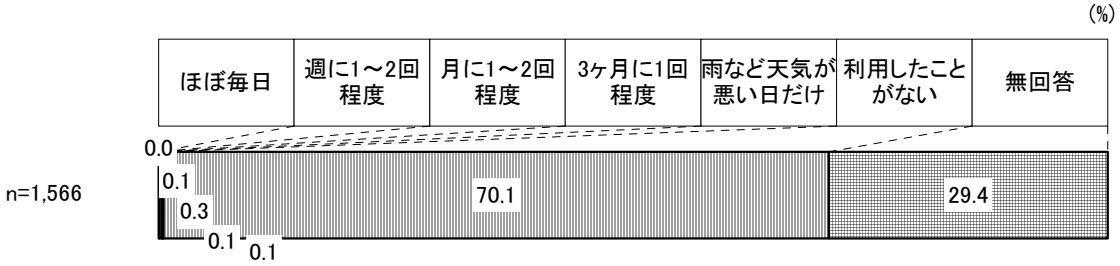
		n	利用する必要がない	バス停留所が近くにない	目的地に行く路線がない	運行本数が少ない	目的地まで時間がかかる	運賃が高い	時間が読めない	他の交通手段が便利	その他	無回答
全体		1,257	56.8	28.6	17.3	15.7	11.0	1.6	11.9	22.0	7.9	1.2
居住地区	本町地区	95	61.1	▼ 18.9	14.7	○ 28.4	△ 16.8	0.0	△ 20.0	18.9	1.1	0.0
	中央・南地区	58	△ 63.8	● 15.5	▼ 10.3	12.1	6.9	1.7	13.8	19.0	5.2	0.0
	東地区	83	61.4	★ 13.3	15.7	△ 22.9	14.5	2.4	10.8	○ 34.9	7.2	0.0
	太田地区	201	53.7	25.4	16.4	△ 22.9	15.9	1.0	15.4	26.9	10.0	0.5
	江面地区	49	▼ 46.9	30.6	18.4	○ 26.5	☆ 30.6	0.0	○ 26.5	26.5	8.2	0.0
	清久地区	34	★ 38.2	★ 8.8	17.6	☆ 38.2	☆ 47.1	2.9	▼ 5.9	☆ 50.0	0.0	2.9
	菖蒲・三箇地区	107	● 45.8	△ 38.3	15.9	▼ 10.3	6.5	1.9	10.3	△ 27.1	6.5	4.7
	小林・栢間地区	48	▼ 47.9	31.3	16.7	▼ 6.3	6.3	0.0	8.3	▼ 14.6	6.3	2.1
	栗橋・伊坂地区	128	△ 62.5	24.2	20.3	▼ 9.4	6.3	4.7	7.8	19.5	10.9	0.8
	静・豊田地区	93	● 43.0	☆ 51.6	△ 23.7	▼ 6.5	▼ 2.2	0.0	▼ 3.2	▼ 12.9	15.1	2.2
	鷲宮地区	178	△ 64.6	△ 35.4	16.3	▼ 10.7	6.2	2.2	11.2	▼ 16.9	6.2	1.7
	桜田地区	174	△ 64.9	30.5	17.8	11.5	6.9	1.1	10.3	17.8	8.6	0.6
年齢	18～29 歳	138	△ 65.2	32.6	15.9	17.4	10.9	3.6	13.8	24.6	5.8	0.7
	30 歳代	175	61.1	33.1	15.4	16.6	8.6	2.3	11.4	24.6	7.4	0.6
	40 歳代	176	59.7	△ 36.4	17.6	15.9	11.4	2.3	13.6	19.9	6.3	0.6
	50 歳代	259	54.8	30.5	15.4	16.6	10.4	0.0	10.8	23.6	6.9	0.0
	60 歳代	316	58.2	▼ 21.8	18.0	15.8	9.5	1.3	10.8	19.0	8.2	1.3
	70 歳代	146	● 46.6	▼ 19.2	18.5	11.6	15.8	1.4	12.3	24.0	12.3	3.4
	80 歳以上	32	★ 25.0	△ 34.4	☆ 34.4	15.6	△ 18.8	0.0	▼ 6.3	21.9	15.6	6.3

（３）福祉バス（鷲宮区域）について

①利用経験

福祉バス（鷲宮区域）を「利用したことがない」（70.1%）とする人は７割と多い。利用していると回答した人は８人とごく僅かである。

(3)福祉バス(鷲宮区域)について
① 利用したことがありますか。あてはまるものを1つ選んで○印を付けてください。



②利用目的

福祉バス（鷲宮区域）を利用したことがあると回答した８人の利用目的は、「公共施設（市役所・公民館等）の利用等」（3 人）、「余暇・レジャー」（2 人）、「通勤・通学」、「習い事・サークル活動」がそれぞれ１人となっている。

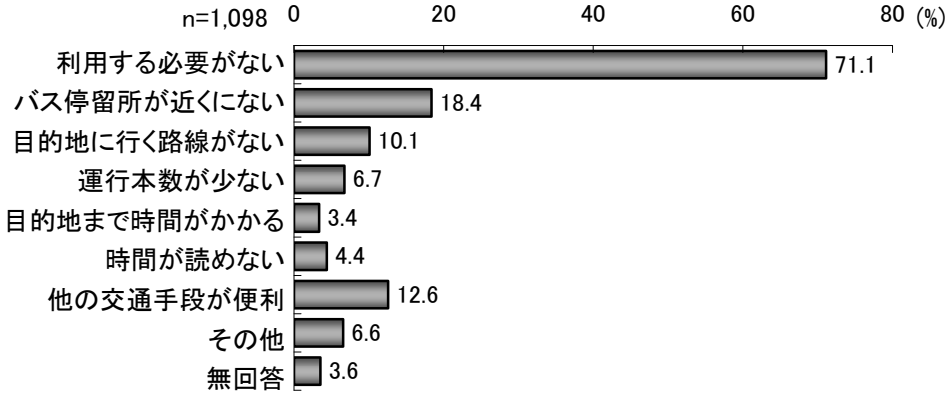
②【①で 1～5 とお答えいただいた方におたずねします。】
主にどのようなときに利用していますか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。

n	通勤・通学	買い物	通院	公共施設（市役所・公民館等）の利用等	習い事・サークル活動	余暇・レジャー	その他	無回答
8 人	1 人	0 人	0 人	3 人	1 人	2 人	0 人	1 人

③利用しない理由

福祉バス（鷲宮区域）を利用しない理由は、「利用する必要がない」（71.1%）が７割と多数を占めている。「バス停留所が近くにない」（18.4%）とする人は２割弱となっている。

③【①で「6.利用したことがない」とお答えいただいた方におたずねします。】
利用しない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○印を付けてください。



≪居住地区、年齢別　利用しない理由≫

居住地区別にみると、「バス停留所が近くにない」、「目的地に行く路線がない」は静・豊田地区で多くなっている。

年齢別では、18～29 歳は「利用する必要がない」が８割強と多いが、40 歳代では「バス停留所が近くにない」、70 歳以上では「目的地に行く路線がない」をあげる人が多くなっている。

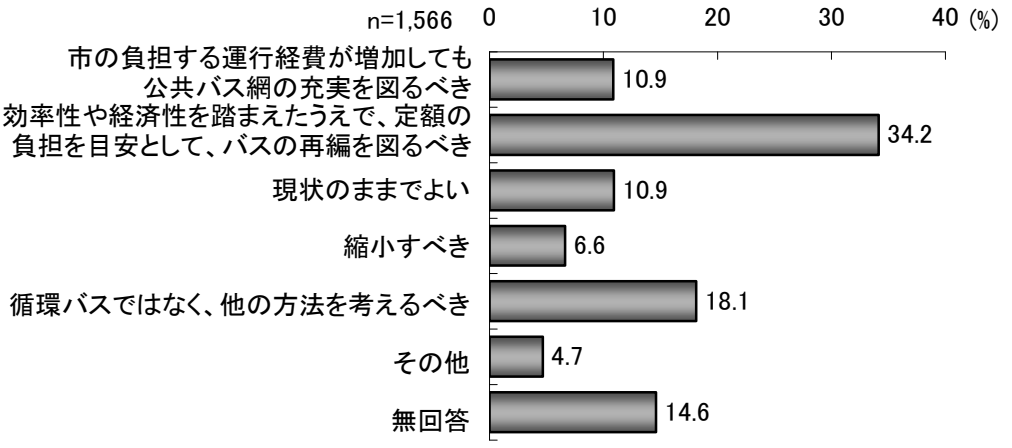
(%)

		n	利用する必要がない	バス停留所が近くにない	目的地に行く路線がない	運行本数が少ない	目的地まで時間がかかる	時間が読めない	他の交通手段が便利	その他	無回答
全体		1,098	71.1	18.4	10.1	6.7	3.4	4.4	12.6	6.6	3.6
居住地区	本町地区	77	○ 83.1	▼ 9.1	▼ 2.6	5.2	1.3	1.3	▼ 3.9	5.2	3.9
	中央・南地区	45	△ 77.8	15.6	8.9	2.2	2.2	6.7	11.1	2.2	2.2
	東地区	69	75.4	▼ 13.0	7.2	▼ 1.4	1.4	1.4	△ 18.8	5.8	7.2
	太田地区	140	72.9	14.3	10.0	4.3	3.6	2.9	10.7	2.9	6.4
	江面地区	29	72.4	13.8	▼ 3.4	3.4	0.0	0.0	10.3	6.9	10.3
	清久地区	21	71.4	14.3	● 0.0	4.8	4.8	0.0	14.3	0.0	9.5
	菖蒲・三箇地区	86	● 57.0	19.8	7.0	2.3	5.8	5.8	12.8	14.0	8.1
	小林・栢間地区	34	67.6	△ 23.5	11.8	2.9	0.0	0.0	▼ 5.9	2.9	0.0
	栗橋・伊坂地区	119	71.4	19.3	13.4	6.7	4.2	5.0	12.6	11.8	1.7
	静・豊田地区	82	★ 52.4	☆ 43.9	△ 17.1	4.9	1.2	2.4	12.2	14.6	2.4
	鷲宮地区	199	75.4	17.1	8.5	7.5	3.0	5.5	15.6	5.5	1.0
	桜田地区	191	71.7	17.8	13.6	△ 15.7	5.8	7.3	14.1	3.7	1.6
年齢	18～29 歳	145	○ 81.4	20.7	7.6	9.0	3.4	4.8	13.1	8.3	0.0
	30 歳代	171	75.4	19.9	8.8	7.0	2.9	4.1	14.0	5.3	1.8
	40 歳代	169	69.8	△ 25.4	11.2	5.9	4.7	3.6	11.2	4.7	3.6
	50 歳代	216	71.3	20.4	9.7	6.0	3.7	3.2	14.8	4.2	3.7
	60 歳代	250	69.6	▼ 12.4	8.0	5.6	2.0	4.4	10.0	7.6	5.2
	70 歳代	111	▼ 61.3	▼ 11.7	△ 16.2	8.1	4.5	6.3	11.7	11.7	5.4
	80 歳以上	22	★ 36.4	22.7	☆ 27.3	9.1	4.5	9.1	△ 18.2	4.5	13.6

12-4. 市内循環バスの運営について

市内循環バスの運営について、「効率性や経済性を踏まえたうえで、定額の負担を目安として、バスの再編を図るべき」（34.2%）との回答が最も多く、３人に１人強の割合となっている。「循環バスではなく、他の方法を考えるべき」（18.1%）との回答は２割弱となっており、「市の負担する運行経費が増加しても公共バス網の充実を図るべき」や「現状のままでよい」とする人はそれぞれ１割となっている。

問 30　市が運営している市内循環バスの運行には、年間約 5,500 万円の運行経費が必要となります。
このことについて、あなたのお考えに近いものを、次の中から1つ選んで○印をつけてください。



≪居住地区、年齢別　市内循環バスの運営について≫

居住地区別にみると、「循環バスではなく、他の方法を考えるべき」は、菖蒲・三箇地区で３割弱と多い。

年齢別では、18～30 歳代では「現状のままでよい」との回答がやや多く、６人に１人の割合となっている。40 歳代では「効率性や経済性を踏まえたうえで、定額の負担を目安として、バスの再編を図るべき」をあげる人が４割強と多い。

(%)

		n	市の負担する運行経費が増加しても公共バス網の充実を図るべき	効率性や経済性を踏まえたうえで、定額の負担を目安として、バスの再編を図るべき	現状のままでよい	縮小すべき	循環バスではなく、他の方法を考えるべき	その他	無回答
	全体	1,566	10.9	34.2	10.9	6.6	18.1	4.7	14.6
居住地区	本町地区	136	5.9	31.6	15.4	6.6	18.4	6.6	15.4
	中央・南地区	69	△ 20.3	31.9	8.7	7.2	▼ 11.6	1.4	18.8
	東地区	117	10.3	35.9	14.5	6.8	▼ 11.1	6.8	14.5
	太田地区	253	10.3	34.4	12.3	6.3	19.0	3.2	14.6
	江面地区	64	▼ 4.7	32.8	12.5	7.8	18.8	4.7	18.8
	清久地区	43	11.6	34.9	11.6	4.7	16.3	4.7	16.3
	菖蒲・三箇地区	147	7.5	▼ 28.6	6.8	5.4	○ 28.6	2.0	21.1
	小林・栢間地区	62	▼ 3.2	32.3	8.1	9.7	22.6	3.2	21.0
	栗橋・伊坂地区	150	9.3	36.0	11.3	5.3	18.7	6.7	12.7
	静・豊田地区	103	14.6	32.0	▼ 4.9	5.8	16.5	11.7	14.6
	鷲宮地区	207	15.5	37.7	12.1	7.7	16.4	2.4	8.2
	桜田地区	199	13.6	38.2	10.1	6.0	18.1	5.0	9.0
年齢	18～29 歳	160	10.6	36.9	△ 17.5	10.6	▼ 13.1	4.4	6.9
	30 歳代	207	13.5	35.3	△ 16.9	10.1	14.0	5.8	4.3
	40 歳代	208	12.0	△ 43.3	9.6	3.8	19.7	5.3	6.3
	50 歳代	310	9.7	38.1	9.7	4.8	21.3	4.8	11.6
	60 歳代	384	10.9	33.6	8.9	6.3	18.8	5.2	16.4
	70 歳代	213	9.9	● 23.5	7.0	5.6	20.7	3.3	30.0
	80 歳以上	57	8.8	● 22.8	7.0	3.5	15.8	1.8	40.4

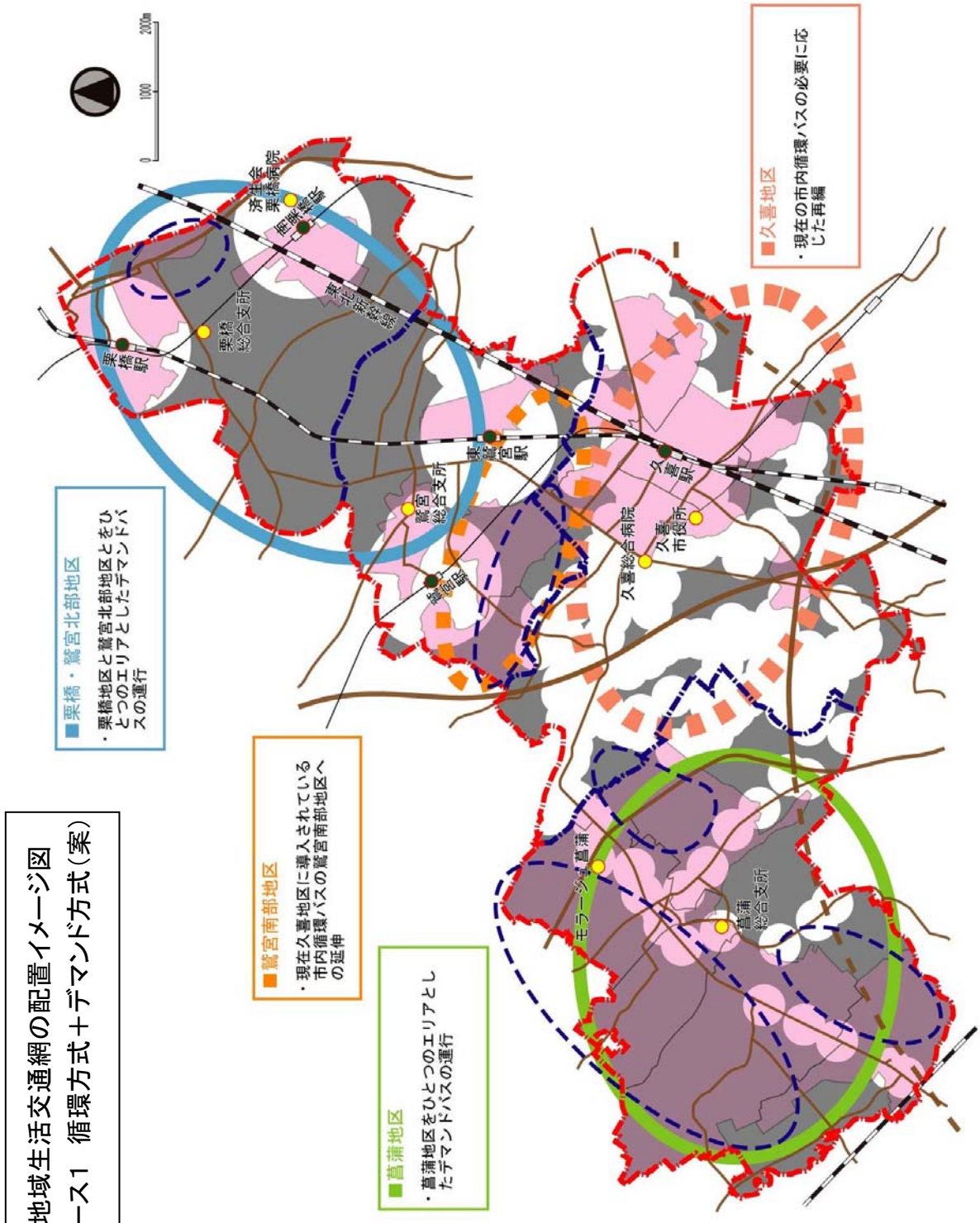


図　地域生活交通網の配置イメージ図　ケース1　循環方式＋デマンド方式（案）

表　配置イメージ　ケース1の比較

ケース	ケース1　循環方式＋デマンド方式（案）
概略運行経費	・久喜地区＋鷲宮南部地区（市内循環バス）：約66,700千円 ・菖蒲地区（デマンド交通）　：約23,400千円 ・栗橋地区＋鷲宮北部地区（デマンド交通）　：約23,400千円 ■4地区計：約113,500千円　／年 注：初期投資としての車両購入費は含んでいない。車両の減価償却費は運行経費で考慮している。
概略運行経費は、現行の市内循環バスや事例の実績に基づき、以下の仮定より試算を行っています。	
概略ルート延長	■参考：現行の市内循環バスの実績 ・久喜地区：　574.95km　7系統　合計69便
	■市内循環バス ・久喜地区＋鷲宮南部地区：約575km　7系統　合計約70便 ■デマンド交通 ・菖蒲地区　：1エリア（3台運行） ・栗橋地区＋鷲宮北部地区　：1エリア（3台運行）
連絡予定施設	・久喜地区：鉄道駅、市役所、厚生連久喜総合病院　他 ・菖蒲地区：路線バスの既存バス停、総合支所、商業施設　他 ・栗橋地区：鉄道駅、総合支所、済生会栗橋病院　他 ・鷲宮地区：鉄道駅、総合支所　他
便　　数	■市内循環バス ・現行市内循環バスと同程度（午前7時～午後8時の間に運行、1系統当たり10便・日） ■デマンド交通 ・概ね午前8時～午後6時の間に運行
概略輸送力	■市内循環バス ・1系統当たり300人／日（30人×10便）　バスに乗車可能な最大人数である。 ■デマンド交通 ・デマンド交通1台当たり約30人／日　　過去の事例による1台当たりの平均輸送人数である。

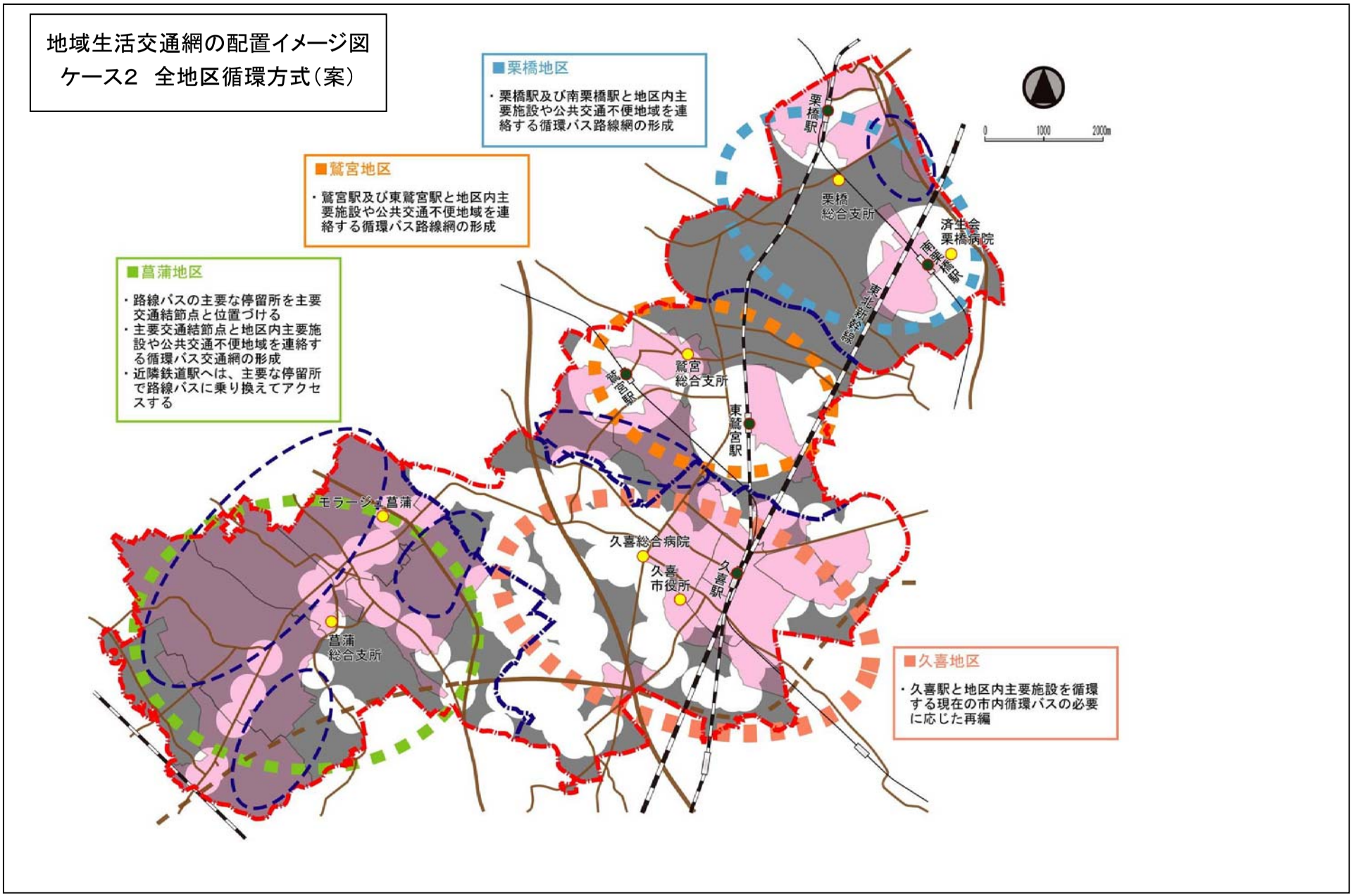


図 地域生活交通網の配置イメージ図　ケース2　全地区循環方式（案）

表　配置イメージ　ケース2の比較

ケース	ケース2　全地区循環方式（案）
概略運行経費	・久喜地区（市内循環バス）：約66,700千円 ・菖蒲地区（市内循環バス）：約66,700千円 ・栗橋地区（市内循環バス）：約34,800千円 ・鷲宮地区（市内循環バス）：約34,800千円 ■4地区計：約203,000千円　／年 注：初期投資としての車両購入費は含んでいない。車両の減価償却費は運行経費で考慮している。
概略運行経費は、現行の市内循環バスや事例の実績に基づき、以下の仮定より試算を行っています。	
概略ルート延長	■参考：現行の市内循環バスの実績 ・久喜地区：　574.95km　7系統　合計69便
	■市内循環バス ・久喜地区：約575km　7系統　合計約70便 ・菖蒲地区：約575km　5～7系統　合計約70便 ・栗橋地区：約300km　3～4系統　合計約35便 ・鷲宮地区：約300km　3～4系統　合計約35便
連絡予定施設	・久喜地区：鉄道駅、市役所、厚生連久喜総合病院　他 ・菖蒲地区：路線バスの既存バス停、総合支所、商業施設　他 ・栗橋地区：鉄道駅、総合支所、済生会栗橋病院　他 ・鷲宮地区：鉄道駅、総合支所　他
便　　数	■市内循環バス ・現行市内循環バスと同程度（午前7時～午後8時の間に運行、1系統当たり10便・日）
概略輸送力	■市内循環バス ・1系統当たり300人／日（30人×10便）　バスに乗車可能な最大人数である。

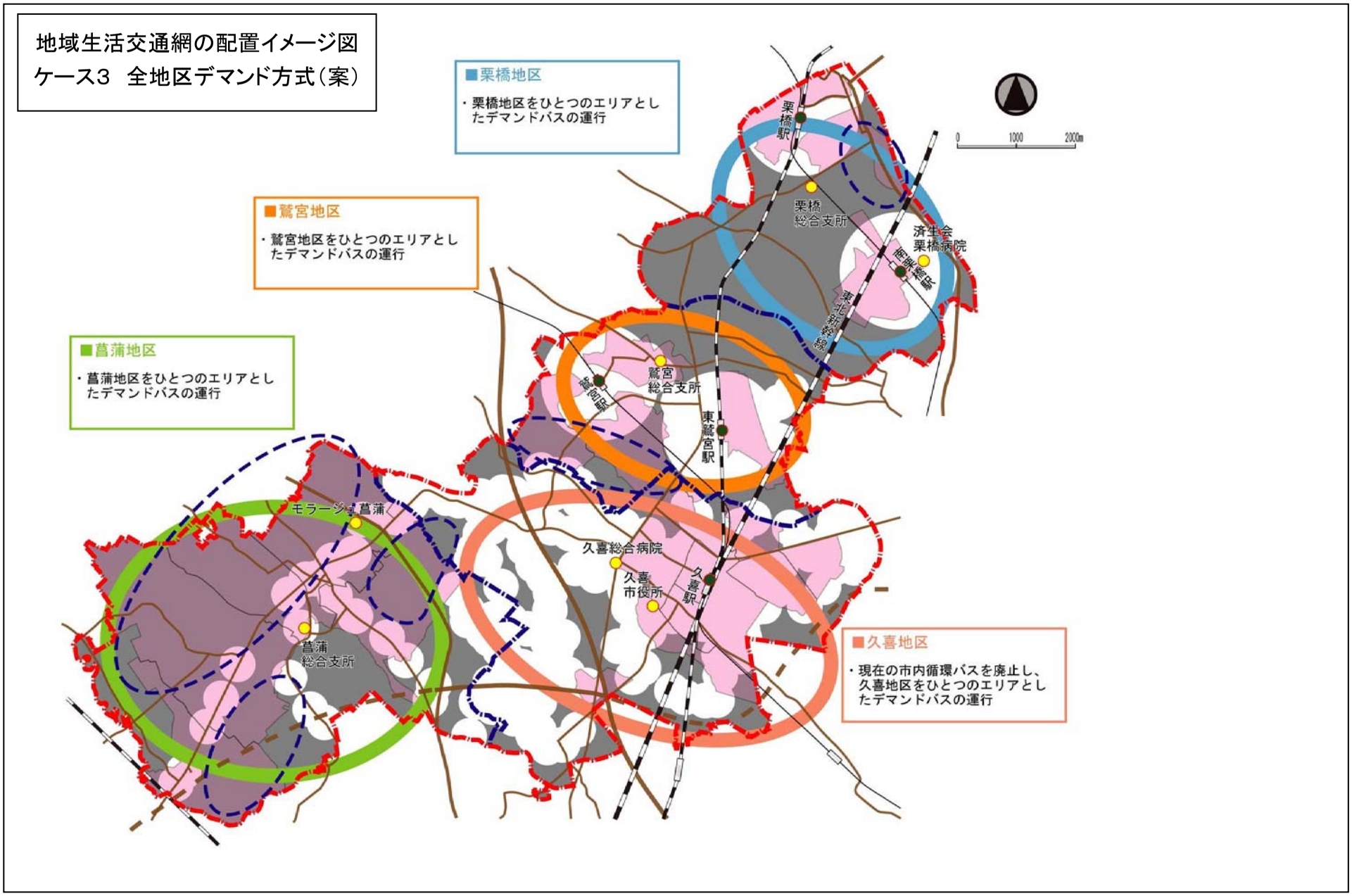


図　地域生活交通網の配置イメージ図　　ケース3　全地区デマンド方式（案）

表　配置イメージ　ケース3の比較

ケース	ケース3　全地区デマンド方式（案）
概略運行経費	・久喜地区（デマンド交通）：約42,000千円 ・菖蒲地区（デマンド交通）：約23,400千円 ・栗橋地区（デマンド交通）：約23,400千円 ・鷲宮地区（デマンド交通）：約23,400千円 ■4地区計：約112,200千円　/年 注：初期投資としての車両購入費は含んでいない。車両の減価償却費は運行経費で考慮している。
概略運行経費は、現行の市内循環バスや事例の実績に基づき、以下の仮定より試算を行っています。	
概略ルート延長	■デマンド交通 ・久喜地区：1エリア（6台運行） ・菖蒲地区：1エリア（3台運行） ・栗橋地区：1エリア（3台運行） ・鷲宮地区：1エリア（3台運行） 注：久喜地区は人口規模が他地区の2倍以上であり、目的地となる施設数も多いため他地区の2倍となる6台運行とした。
連絡予定施設	・久喜地区：鉄道駅、市役所、厚生連久喜総合病院　他 ・菖蒲地区：路線バスの既存バス停、総合支所、商業施設　他 ・栗橋地区：鉄道駅、総合支所、済生会栗橋病院　他 ・鷲宮地区：鉄道駅、総合支所　他
便　　数	■デマンド交通 ・概ね午前8時～午後6時の間に運行
概略輸送力	■デマンド交通 ・デマンド交通1台当たり約30人/日　　過去の事例による1台当たりの平均輸送人数である。

資料7　地域公共交通会議について

1　地域公共交通づくりの考え方

地域公共交通の充実は、「暮らしやすいまち」をつくっていくために必要なことのひとつです。

そのため、地域公共交通を検討していく際には、住民、事業者、行政等の関連主体の連携が重要となります。

2　地域公共交通に関係する法定の協議会

地域公共交通の関連主体の連携を諮る場としては、法律に基づく協議会を設置し、協議会の中で計画を策定していくことが有効と考えられます。

地域公共交通に関する協議会のうち、市町村が主催するものとしては以下の２つがあり、道路運送法でバス事業の届出を行う際にはどちらかの会議において協議が調っていることを証する書類を添付することが義務づけられています。（どちらか一方の会議を開催することが必要）

① 地域公共交通会議（根拠法令：道路運送法）

バス、タクシーを対象とした「地域の公共交通計画」を策定する。

② 法定協議会（根拠法令：地域公共交通の活性化及び再生に関する法律）

鉄道等を含む全ての公共交通を対象とした「地域公共交通総合連携計画」を策定する。

久喜市公共交通検討委員会での検討事項は「久喜市が実施する公共交通（バス交通）のあり方」であり、協議会はその結果を受けて具体的な計画を策定していくこととなります。

そのため、久喜市の場合は、バス交通を対象とした「地域公共交通会議」を設置することとなります。

3　地域公共交通会議

① 協議内容

バス運送サービスのあり方について検討し、委託または直営によるバス運送の実施について協議すると供に、「地域の公共交通計画」を策定・実施する。

② 参加メンバー

住民、交通事業者、行政などから必要なメンバーを選出する。

③ メリット

事業の実施に必要な認可や照会、届け出等の手続きの簡素化、迅速化が図れる。

［道路運送法施行規則第九条関連（抜粋）］

（一般乗合旅客自動車運送事業の運賃等の届出）

第九条　法第九条第三項 又は第四項 の規定により運賃等の設定又は変更の届出をしようとする者は、当該運賃等の実施予定日の三十日前までに、次に掲げる事項を記載した運賃等設定（変更）届出書を提出するものとする。

一　氏名又は名称及び住所並びに法人にあつては、その代表者の氏名

二　設定又は変更しようとする運賃等を適用する路線

三　設定又は変更しようとする運賃等の種類、額及び適用方法（変更の届出の場合には、新旧の運賃等（変更に係る部分に限る。）を明示すること。）

四　適用する期間又は区間その他の条件を付す場合には、その条件

五　実施予定日

2　法第九条第四項 の規定による運賃等の設定又は変更の届出に係る前項の届出書には、当該届出に係る運賃等について次条に規定する地域公共交通会議又は地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 （平成十九年法律第五十九号）第六条 に規定する協議会（第九条の三第一項第二号から第五号に掲げる者を構成員に含むものに限る。以下単に「協議会」という。）において協議が調つていることを証する書類を添付するものとする。

----- 中略 -----

（地域公共交通会議の構成員）

第九条の三　地域公共交通会議は、次に掲げる者により構成するものとする。

一　地域公共交通会議を主宰する市町村長又は都道府県知事その他の地方公共団体の長

二　一般乗合旅客自動車運送事業者その他の一般旅客自動車運送事業者及びその組織する団体

三　住民又は旅客

四　地方運輸局長

五　一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体

2　地域公共交通会議を主宰する市町村長又は都道府県知事は、必要があると認めるときは、前項各号に掲げる者のほか、地域公共交通会議に、次に掲げる者を構成員として加えることができる。

一　路線を定めて行う一般乗合旅客自動車運送事業又は第四十九条第一号に規定する市町村運営有償運送について協議を行う場合には、次に掲げる者

イ　道路管理者

ロ　都道府県警察

二　学識経験を有する者その他の地域公共交通会議の運営上必要と認められる者

資料8　市民意見提出制度（パブリック・コメント）実施結果

意見提出期間	平成２３年８月１５日～平成２３年９月１３日
意見件数	３７人　３８件

○提出された意見の概要及び意見に対する考え方等

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
1	栗橋地区は、市内循環バスや定期バスもなく、不便である。 自家用車利用は、老齢化等により少数になっていると思う。 市内循環バスのように栗橋駅、南栗橋駅、済生会病院、総合支所など要所への公共交通を確保して欲しい。 他市のふれあいタクシーのような交通があると、高齢者の買い物の不便さを解消できると思う。	報告書案52ページにお示しした地域生活交通網（案）は、事例より整理した市内循環バス及びデマンドバスの特徴を踏まえ、人口分布状況など地区特性に応じた交通システムのあり方を検討したものです。 栗橋地区の公共交通としてはデマンドバスで対応するという考え方です。 ご提案の市内循環バスとデマンドバスの併用は、運行費用の増加や利用者の分散等が想定されるため、財政状況を踏まえた経済合理性の点から考えておりません。 なお、どのようなデマンドバスを走らせるかといった具体的な運行のあり方については、今後実施を予定しております地域公共交通会議にて検討してまいります。	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
2	第５章、第６章等にある、高齢者や障がい者（特に障がい者）の交通手段が長年に渡ってない。 今後、在宅障がい者を対象に関連施設や学校機関等の福祉機関でニーズ調査を実施して欲しい。市民ニーズ把握を実施しているが、障がい者の意見がどの程度反映されているか疑問である。 通所施設に毎日通う人にとっては最低限必要な事である。	報告書案 28 ページ以降の第３章 市民ニーズ把握では、市民意識調査として無作為抽出した市民 3,000 人を対象に住民ニーズを把握したものと合わせて、団体ヒアリング調査を行っております。 団体ヒアリングは、市内の福祉団体を対象に実施し、日頃の移動状況、今後のバス交通に対する考えをお聞きしています。 また、報告書案 45 ページにお示しした基本方針②「誰もが安全で安心に移動できる公共交通システムの整備」に基づき、今後、具体的な運行計画の検討にあたっては、高齢者や障がい者の視点に配慮するよう努めます。	原案どおり

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
3	障がい者にとって利用しやすい公共交通の運営を望む。通所施設の送迎がなく、親の送迎や移動費用の負担があるので、これらの軽減を検討していただきたい。 必要としている障がい者が利用できるよう、ニーズ調査を行って欲しい。	2番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
4	施設や作業所に通所する障がい者にとって利用しやすい市のバス路線を望む。	2番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
5	市内循環バスの本数が少ないため、もう少し増やして欲しい。 また、病院や商業施設・工場へのバスの運行本数が増えると思われるので、「久喜市議会だより」や「都市再生整備計画」にあるように、大規模な駅前広場やバスターミナルの設置が必要だと思う。	市内循環バスは、鷲宮南部地区と菖蒲東部地区における延伸等を含めた具体的な再編のあり方を、今後実施予定である地域公共交通会議にて検討してまいります。その中で本数についても検討課題にしてまいります。 駅前広場やバスターミナルの設置については、都市再生整備計画に対する事後評価を平成22年度に実施しました。その中の今後のまちづくりの方策において、駅周辺の交通混雑への対応として、オープンスペースの確保や既存駐車場の活用を位置付けております。	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「市内循環バスの具体的再編のあり方について、ルート、経由地、運行本数、運行時間帯などの検討・計画」と加筆します。
6	電動車イスは雨の日や急な天気変化の日は使用できない。また、市役所など久喜駅の反対側の施設は距離があるため、利用が難しい。こうしたことから、デマンドバスが利用できるよう望む。市内全域のデマンドバスの運行を望む。	報告書案52ページにお示ししたように、久喜地区は、現行の市内循環バスについて一部延伸等を含めて、再編のあり方を検討するという考え方です。ご提案の市内全域のデマンドバスやそれに伴う市内循環バスとの併用は、運行費用の増加や利用者の分散等が想定されるため、財政状況を踏まえた経済合理性の点から考えておりません。	原案どおり
7	市内全域のデマンドバスの運行を望む。	報告書案52ページにお示しした地域生活交通網（案）は、事例より整理した市内循環バス及びデマンドバスの特徴を踏まえ、人口分布状況など地区特性に応じた交通システムのあり方を検討したものです。 ご提案の市内全域のデマンドバスやそれに伴う市内循環バスとの併用は、	原案どおり

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
		運行費用の増加や利用者の分散等が想定されるため、財政状況を踏まえた経済合理性の点から考えておりません。	
8	菖蒲地区、栗橋・鷲宮北部地区におけるデマンド交通の提案は基本的には良いと思うが、さらに次のような提案をしたい。午前と午後に数便は市内循環バスを拡大して定時便を運行する。利用者はその時間に合わせて、生活スタイルを組み立てることができる。予算は、デマンドバスに割り当てられた約半分を市内循環バスに充当する。	ご提案の市内循環バスとデマンドバスの併用は、運行費用の増加や利用者の分散等が想定されるため、財政状況を踏まえた経済合理性の点から考えておりません。	原案どおり
9	現在、栢間地区から久喜駅に行く場合、「菖蒲仲橋」で乗換が必要となる。帰りも同様であるため、桶川駅から久喜駅直通路線バスを数便運行してもらいたい。バス会社にとっても、モラージュ菖蒲利用者も含めてバス利用者の増加が見込めると考えられる。	報告書案44ページにお示しした基本方針①「幹線・支線システムによる公共交通システムの形成を目指す」に基づき、幹線システムの充実を図るため、今後のバス事業者との調整のなかで、ご意見を参考とさせていただきます。	原案どおり
10	市内全域のデマンドバスの運行を望む。	7番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
11	日本全体が高齢社会になっており、今後ますます高齢者が増えると思う。久喜市も同様であり、また高齢の１人暮らしや夫婦世帯が多くなっている。病院や買い物等に何で行くかは大事な問題である。現在は自動車利用であっても、これからの事を考えると不安である。デマンドバスを実施している所もあると聞くので、実現して欲しい。	今回検討した地域生活交通網（案）を基本に、具体的な運行のあり方について、今後実施を予定しております地域公共交通会議にて検討してまいります。 検討にあたっては、報告書案45ページにお示しした基本方針②「誰もが安全で安心に移動できる公共交通システムの整備」に基づき、交通手段の選択肢が少ない高齢者や障がい者の視点に配慮するよう努めます。	原案どおり
12	最近は体の不自由な方や足腰の不自由な高齢者の方が多くなっており、医者に行く時は、タクシー利用が多い。生活の中で少しでも利用できるものがあったら安心である。他の地域の話を聞いて、久喜市でもあったら、皆さんが利用できると思う。	11番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
13	鷲宮地域において有用な交通機関は、自家用車、タクシーのみであり、公共交通機関は JR 線だけで利便性がない。必要としているのは交通弱者である。そのためには、デマンド方式による公共交通システムを構築することを切望する。 障がい者の方は、停留所まで到達するのが苦痛である。故に、予約により、住居至近の路線上で乗降、あるいは、一定距離上の住居に立ち寄り乗降させることなどにより交通弱者の利便性が良くなり、利用者が増加すると思う。済生会栗橋病院、JA 久喜総合病院などの中大規模基幹病院、各総合支所、市役所、他の公共施設へ鉄道駅に経由し運行することが望ましい。運行時刻は毎時定時とし、若干の前後はあったにせよ一日の予定が計画づけることが出来る。	報告書案52ページにお示ししたように、鷲宮地区はデマンド交通の導入を基本としつつ、久喜地区と隣接する地域では、その連続性を考慮して現行の市内循環バスを延伸することによる対応を基本とします。 どのようなデマンドバスを走らせるかといった具体的な運行のあり方については、今後実施を予定しております地域公共交通会議にて検討してまいります。しかしながら、ご提案にある広範囲を経由するデマンドバスは、路線が長距離となり、所要時間の増加など利便性の低下が考えられます。それによって利用率の低下といった問題が発生する恐れがあり、費用対効果の面からも実現性は低いと考えております。	原案どおり
14	デマンド交通の計画エリアについて、鷲宮北部地区が鷲宮地区のどの部分を指しているのか不明確である。また、同じ鷲宮地区の中で、デマンド交通を使えるエリアと使えないエリアを作ることは、現実的に難しいのではないか。したがって、現時点の構想段階では栗橋・鷲宮地区の全域としておき、エリアをしぼる場合は明確な理由が必要であるから、事業化の具体的な検討の中で判断すべきと考える。	地域生活交通網の充実に向けては、ご意見のように今後さらに詳細に人口分布や施設配置など地区特性を考慮して、さらに費用対効果の検討を行い、効率的・効果的な計画を策定・推進することが必要と考えられます。よって、本検討では鷲宮地区においては、デマンド交通の導入を基本としつつ、久喜地区と隣接する地域では、その連続性を考慮して現行の市内循環バスを延伸することによる対応を基本とします。なお、どのエリアにデマンドバスを走らせるかとったような具体的な運行のあり方については、今後実施を予定しております地域公共交通会議にて検討してまいります。	報告書案 52 ページの地域生活交通網の配置イメージ図について、菖蒲東部地区と鷲宮南部地区は破線でエリアを示し、市内循環バスの延伸を基本としつつも、事業化の検討にあたってデマンドバス導入の可能性も排除しないよう修正します。
15	日中の市内循環バスは採算が合うか少し心配である。しかし、朝と夜の通勤時間帯の利用者は多いようにも思う。電車の本数は問題ないので栗橋駅、南栗橋	現行の市内循環バスは平成21年度実績で、運賃収入は約 1,217 万円となっており、年間運行経費から運賃収入を差し引いた約 5,462 万円を久喜市にて負担しています。時間帯別の	報告書案 55 ページの事業化に向けた検討課題に「市内循環バスの具体的再編のあり方につい

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
	駅行きがあれば良いと思う。	利用者の把握は行っておりませんが、系統によって乗降数に差がみられます。 報告書案52ページにお示しした地域生活交通網（案）は、事例より整理した市内循環バス及びデマンドバスの特徴を踏まえ、人口分布状況など地区特性に応じた交通システムのあり方を検討したものです。 栗橋地区の公共交通としてはデマンドバスで対応するという考え方です。	て、ルート、経由地、運行本数、運行時間帯などの検討・計画」、「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
16	旧栗橋町と旧久喜市は合併により緊密な関係になったが、栗橋地区から久喜地区の中心部に行く交通手段が、特に交通弱者にとって何もないに等しい。 栗橋地区からどんな市民も久喜地区の中心施設に行けるような公共交通を設定する必要がある。	ご提案の久喜地区から栗橋地区間における公共交通の設定については、路線が長距離となり、所要時間の増加など利便性の低下が考えられます。それによって利用率の低下といった問題が発生する恐れがあり、費用対効果の面からも実現性は低いと考えております。	原案どおり
17	栗橋地区にも循環バスを走らせて、それを補完する意味でデマンド方式による運行もプラスした公共交通が絶対必要である。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
18	循環バスとデマンドバスの併用が良いと思う。	7番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
19	久喜地区（市役所、駅、久喜総合病院）、鷲宮地区（駅、支所）、栗橋地区（支所、駅、済生会病院）、菖蒲地区（支所）を経由するような、大きな市内循環バスを１本通して欲しい。 栗橋地区にも循環バスとデマンドバスの２つが必要である。	ご提案の市内全域を経由する市内循環バスですが、路線が長距離となり、所要時間の増加など利便性の低下が考えられます。それによって利用率の低下といった問題が発生する恐れがあり、費用対効果の面からも実現性は低いと考えております。 また、市内循環バスとデマンドバスの併用は、運行費用の増加や利用者の分散等が想定されるため、財政状況を踏まえた経済合理性の点から考えておりません。	原案どおり

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
20	栗橋地区にもデマンド方式だけではなく、是非循環方式のバスも運行して欲しい。南栗橋から久喜地区方面に行くのは本当に大変である。	16 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
21	栗橋地区に循環バスを運行し、デマンドバスと両方を併用しながら弱者の足を確保して欲しい。	1 番の意見に対する考え方に同じ	報告書案 55 ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
22	循環方式とデマンド方式の併用案は賛成である。しかし、旧久喜市内での循環バスの運行を生かしたままでは、旧３町に対してメリットがない。循環バスは新久喜市全域で運行するよう検討するべきである。久喜地区にもバス停留所までデマンドバスとして欲しい。	19 番の意見に対する考え方に同じ 6 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
23	市民の高齢化が進むと、運転免許の返上などにより、自力での移動手段を失う。そのため、公共施設の利用等、自力で外出できるよう、市の中心部から遠い地区は循環バスの必要性が高いと思う。栗橋地区にも循環バスを運行させ、デマンドバスと併用するべきである。	16 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
24	循環バスは、合併後の久喜市全域で運行して欲しい。循環バス＋デマンドバス（７～８人のりワゴン車）を全地域で実施してほしい。	19 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
25	栗橋地区と菖蒲地区にも循環バスを運行して欲しい。循環バスは大きな施設等を経由すると思うが、そこまで行くのが困難な人もいるので、そこまで行くための足をカバーできるように、循環バスとデマンドバスの組合せが良いと思う。	19 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
26	全地区（久喜、鷲宮、栗橋、菖蒲）に市内循環バスを運行して、それにプラスしてデマンドバスを全地区で利用できるようにして欲しい。	19 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
27	栗橋地区は、高齢者も増えて、買い物も大変な方が増えている。そうした中、栗橋地区や菖蒲地区がデマンドバスという点に違和感がある。最も望ましいのは、病院、市役所、支所、ショッピングモール等を結ぶ、循環方式を菖蒲地区、栗橋地区、鷲宮北部地区にも運行して、それに加えてデマンドバスを取り入れる。	19 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり
28	栗橋地区にも循環バスの運行を望む。	1 番の意見に対する考え方に同じ	報告書案 55 ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
29	合併時には、循環バスが栗橋地区にも運行されるとの話があったと思う。福祉タクシーは利用条件があり、条件を満たさない足の不自由な方が栗橋地区内には沢山いる。そのため、栗橋地区にも循環バスが必要だと思う。久喜地区中心のみ循環バスを運行するのは不公平である。地域生活交通をあくまでも全市的に住民の利便性を考えて計画して欲しい。	1 番の意見に対する考え方に同じ	報告書案 55 ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
30	足の不自由な方は栗橋地区にも沢山いる。停留所間隔をあまり長くせず、循環バスの運行を是非お願いしたい。久喜地区中心とならないよう望む。	1 番の意見に対する考え方に同じ	報告書案 55 ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
31	小型バスでも良いので、栗橋地区にも循環バスの運行を望む。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
32	栗橋地区にも循環バスの運行を望む。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
33	循環バスの運行を望む。	報告書案52ページにお示しした地域生活交通網（案）は、事例より整理した市内循環バス及びデマンドバスの特徴を踏まえ、人口分布状況など地区特性に応じた交通システムのあり方を検討したもので、市内循環バスは久喜地区、菖蒲東部地区及び鷲宮南部地区における延伸を含めた再編という方向で考えております。 なお、具体的な運行のあり方については、今後実施を予定しております地域公共交通会議にて検討してまいります。	原案どおり
34	栗橋地区にも循環バスの運行を望む。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
35	栗橋地区にも循環バスの運行を望む。栗橋地区は全体的に置き去りになっており、違和感がある。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
			線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
36	久喜市内交通の便の向上への取り組みは、行政として最優先課題の一つであると考える。しかし、予算も限られる中で優先順位を厳しくつける必要もあると考える。現在、最も行政の力を必要とする障がい者、高齢者をターゲットとするのは止むを得ないと思う。そうした基準で考えると巡回バス方式は効率が悪いと思う。せっかく１つの市になったのだから、同じ方式でという画一的な考えはない。巡回バスは現状で便利に利用している一般市民もいて、その人達にとってはサービスの低下と思えるだろうが、高齢者社会を迎えるにあたっては、受益者負担という観点でも、健常者には自前で交通手段を確保してもらうことも仕方ないと思う。 したがって、本当に困っている人に光をあてられるデマンド方式を全市で展開すべきであると思う。一度廃止すると再開できないという行政上の問題も理解はできるが、ニーズや市財政等を踏まえ、福祉のまちを目指すためには、全地域でデマンド方式に切り換え、予算が拡大できる時代が来たらきめ細かいルートバスを復活させる目標でも良いと思う。 １つ重要なことは、登録制など悪用を許さない仕組み作りも合わせて構築すべきである。	7番の意見に対する考え方に同じ また、報告書案45ページにお示しした基本方針②「誰もが安全で安心に移動できる公共交通システムの整備」に基づき、今後、具体的な運行計画の検討にあたっては、交通手段の選択肢が少ない高齢者や障がい者の視点に配慮するよう努めます。	原案どおり
37	栗橋地区にも循環バスの運行を望む。	1番の意見に対する考え方に同じ	報告書案55ページの事業化に向けた検討課題に「導入が望まれるデマンド交通の運行形態（路

番号	意見の概要	考え方	報告書案への反映
			線、ダイヤ、バス停など）について具体的な検討・計画」と加筆します。
38	循環バスの運行を望む。	33 番の意見に対する考え方に同じ	原案どおり

久喜市公共交通検討報告書

平成 23 年 12 月
編集・発行　久喜市総務部企画政策課
〒346-8501
久喜市下早見 85-3
電話　　0480-22-1111（代）
FAX　　0480-22-3319
E-mail　kikaku@city.kuki.lg.jp